

高等専門学校の現状について



目次

1. 高等専門学校制度等の沿革
2. 高等専門学校の概要・基本的データ
3. 特色ある教育等
4. 海外交流、留学生受入、KOSEN導入支援
5. 国立高専関係予算
6. 高専新設の動き

※資料中 柱○ とあるのは、【資料4「高等専門学校機能強化パッケージ（仮称）」の方向性について】に記載の項目に主として対応する資料を示している。

1. 高等専門学校制度等の沿革

高等専門学校制度等の沿革

昭和36年	高等専門学校制度の創設
昭和37年	最初の高等専門学校の設置（国立12校、公立2校、私立5校）
昭和42年	商船高等専門学校の設置（5校）
昭和51年	技術科学大学設置 単位制の導入、卒業に必要な単位数の設定
昭和63年	第1回アイデア対決全国等々専門学校ロボットコンテスト開催
平成3年	学科種別の規定を廃止、工業・商業のみとした分野の制限を撤廃 卒業生に準学士の称号を付与、専攻科制度の導入 大学評価・学位授与機構による専攻科修了者への学位授与制度の開始 授業科目の標準に係る規定を廃止、卒業に必要な単位数の見直し（177単位→167単位）
平成10年	メディア等を通じて行う学修について単位認定制度化
平成16年	国立55校を設置・運営する法人として独立行政法人国立高等専門学校機構が発足
平成17年	単位計算方法の見直し（学習単位の導入）
平成20年	公立大学法人による高等専門学校の設置
平成21年	国立8校の高度化再編により、4校の設置
平成27年	大学評価・学位授与機構による専攻科修了者への学位授与の円滑化（専攻科の特例適用開始）
令和2年	高専以外の教育施設における学修の規定の弾力化（高専が認定できる単位数の上限を緩和） 履修証明プログラムの単位認定（高専生の多様な学修等を促進） 実務家教員の高専教育への参画促進（専任教員数の2割の範囲内） 多様なメディアを活用した授業の単位上限の拡大（30単位→60単位）
令和4年	専任教員から基幹教員へ転換等 高等専門学校制度創設60周年記念式典開催
令和5年	平成14年以来の高専設置（私立1校）

2. 高等専門学校の概要・基本的データ

高等専門学校制度の概要①

1. 高等専門学校とは

- 中学校卒業後の15歳の学生を受け入れ、実験実習を中心とした、
5年一貫の実践的技術者教育を行う**高等教育機関**

(昭和36年に制度化、昭和37年以降設置)

- **中堅技術者・研究開発の担い手**の育成に加え、近年では、**社会的需要が高い成長分野**の人材育成や、**地域課題・社会課題の解決**に貢献する人材の育成が期待されている

2. 基本データ

※令和7年5月1日現在（出典：令和7年度学校基本調査、文部科学省調べ）

学 校 数：全58校（国立51校、公立3校、私立4校）

学 生 数：53,305人（女子学生比率 **約24%**）

入学定員（R7）：10,535人（15歳人口の**約1%**）

入学者数（R7）：10,753人（定員充足率 **102.1%**）

（志願者数 **15,173人**〔**志願倍率1.44倍**〕）

卒業後の進路：6割が就職

4割が進学（うち6割が大学へ編入、4割が専攻科へ進学）

高等専門学校制度の概要 ②

- ◆ 目 的 . . . 深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成する。
- ◆ 修業年限 . . . 5年、商船に関する学科は5年6月
- ◆ 入学対象 . . . 中学校卒業生
- ◆ 教員組織 . . . 校長、教授、准教授、講師、助教、助手

◆ 教育課程等

- ①一般科目と専門科目をくさび型に配当して、5年間一貫教育で効果的な専門教育を行っている
- ②卒業要件単位数 167単位以上
(商船に関する学科は、147単位以上)
- ③一学級40人編成、学年制

◆ 称 号

卒業生には準学士の称号

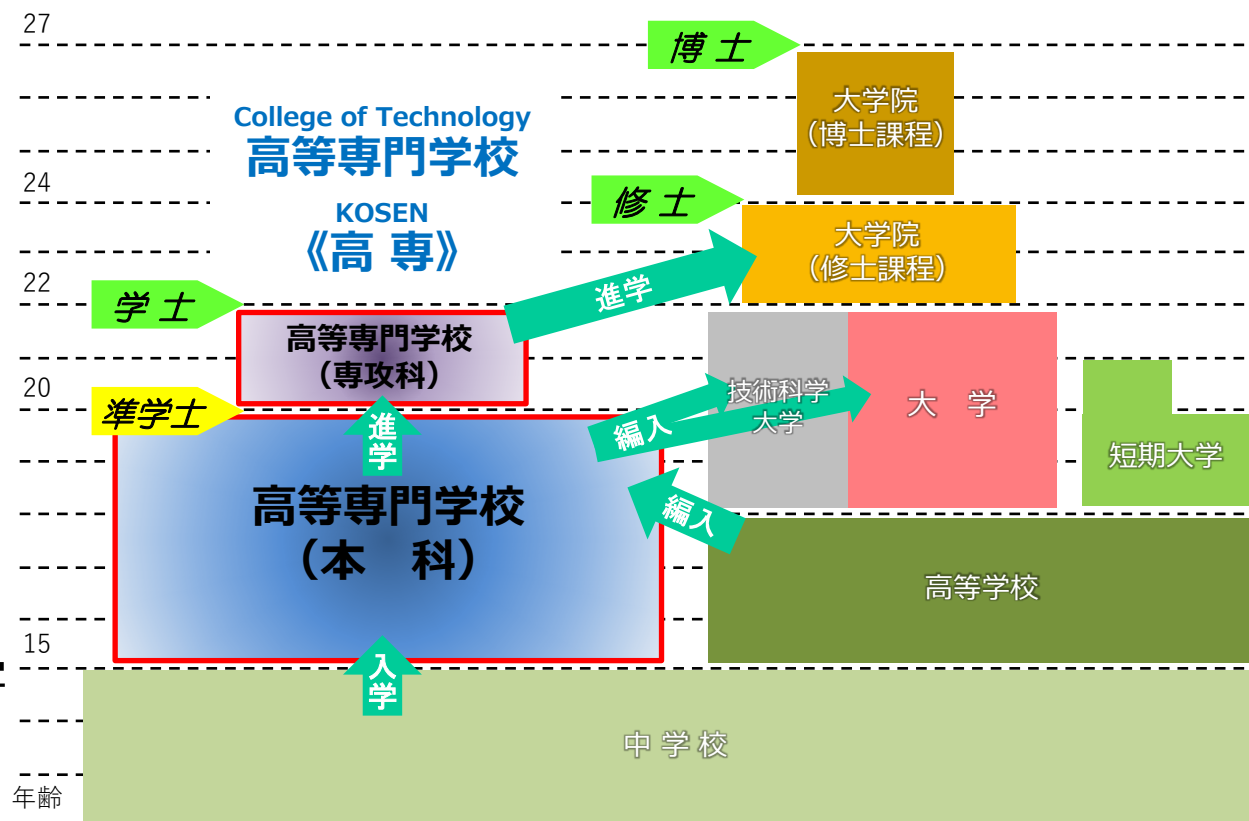
◆ 進 学

高等専門学校卒業後、専攻科進学

※あるいは大学編入学の途がある

※専攻科修了後は、(独)大学改革支援・学位授与機構の審査を経て、学士の学位取得可

高等専門学校と高校、大学・大学院との制度上の関係



学校教育体系における高等専門学校の位置づけ（イメージ）

柱②

養成する人材

◆ ジェネラリスト
や研究者を含
め幅広く人材
を養成

◆ 専門性が求められ
る特定の職業に従
事する人材を養成

◆ 職業又は実際生
活上の各種の目
的に合った人材
を養成

◆ 専門性が求められる
特定の職業に従事す
る人材を養成

◆ 応用技術の修得が重
視される実践的技術
者を養成

◆ 多様な分野のニー
ズに応じた人材を
養成

高等教育

中等教育

大学

- 学術の中心として、広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道德的及び応用的能力を展開させることを目的とする
- 教養教育と学術的な研究成果に基づく専門的な教育を実施

専門職大学

- 深く専門の学芸を教授研究し、専門性が求められる職業を担うための実践的かつ応用的な能力を展開させることを目的とする
- 当該職業に関連する民間事業者等と連携して教育を実施
- 大学の目的の範囲内で専門職業人養成に特化した教育を実施

短期大学

- 深く専門の学芸を教授研究し、職業又は実際生活に必要な能力を育成することを主な目的とする
- 職業又は実際生活に具体的に役立つ専門教育を重点的に実施

専門職短期大学

- 深く専門の学芸を教授研究し、専門性が求められる職業を担うための実践的かつ応用的な能力を育成することを目的とする
- 当該職業に関連する民間事業者等と連携して教育を実施
- 短期大学の目的の範囲内で専門職業人養成に特化した教育を実施

高等専門学校

- 深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする
- 中学校等卒業者に対し、高等学校段階に相当する基礎的能力の育成も含め、早期からの5年一貫教育を実施
- 技術者養成のための実践的な専門教育を重点的に実施

専門学校

- 職業若しくは实际生活に必要な能力を育成し、又は教養の向上を図ることを目的とする
- 特定の職業に必要な能力を習得するために実践を重視した教育を実施

高等学校

高等学校

中学校

高等専門学校配置図

● 国立高専 ⇒ 51校、
 錨 上記のうち商船高専5校

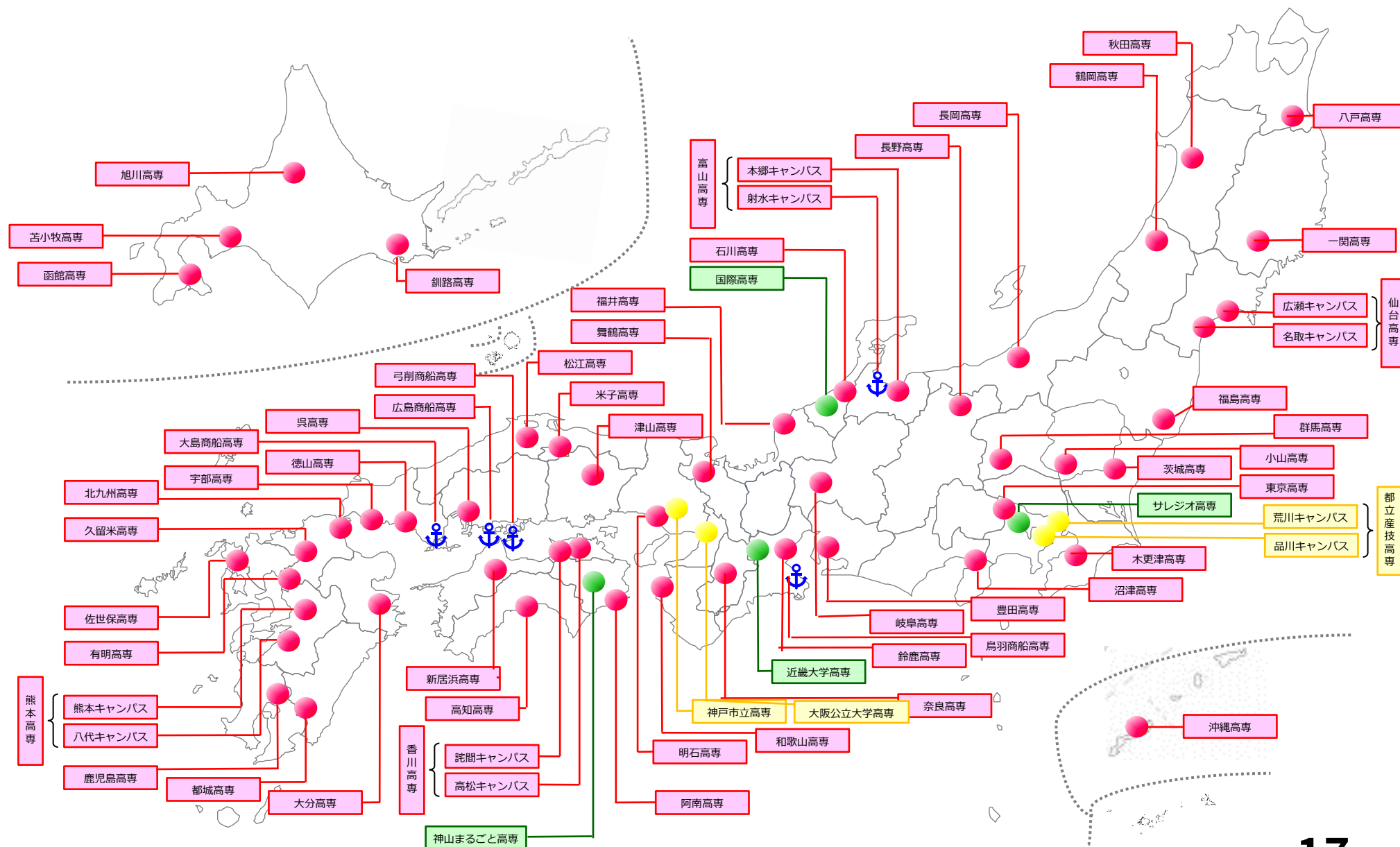
● 公立高専 ⇒ 3校、

● 私立高専 ⇒ 4校

【高専合計 ⇒ 58校】

柱①

令和8年4月1日現在



全国の高等専門学校一覧

(令和8年4月現在)

柱①

ブロック	都道府県名	区分	校名(キャンパス)	市区町村	設置年
北海道		1 国立	函館工業	函館市	S37
		2 国立	苫小牧工業	苫小牧市	S39
		3 国立	釧路工業	釧路市	S40
		4 国立	旭川工業	旭川市	S37
東北	青森	国立	八戸工業	八戸市	S38
	岩手	国立	一関工業	一関市	S39
	宮城	国立	仙台 ※3 (広瀬)旧仙台電波工業 (名取)旧宮城工業	仙台市 名取市	S38 S46
	秋田	国立	秋田工業	秋田市	S39
	山形	国立	鶴岡工業	鶴岡市	S38
	福島	国立	福島工業	いわき市	S37
北関東	茨城	国立	茨城工業	ひたちなか市	S39
	栃木	国立	小山工業	小山市	S40
	群馬	国立	群馬工業	前橋市	S37
	埼玉	なし	※2		
南関東	千葉	国立	木更津工業	木更津市	S42
	神奈川	なし	※2		
	山梨	なし			
東京		1 国立	東京工業	八王子市	S40
		2 公立	都立産業技術 (品川)旧都立工業 (荒川)旧都立航空工業	品川区 荒川区	S37 S37
		3 私立	サレジオ工業	町田市	S38
北陸信越	新潟	国立	長岡工業	長岡市	S37
	富山	国立	富山 ※3 (本郷)旧富山工業 (射水)旧富山商船	富山市 射水市	S39 S42
	石川	1 国立	石川工業	河北郡津幡町	S40
		2 私立	国際	金沢市	S37
	福井	国立	福井工業	鯖江市	S40
	長野	国立	長野工業	長野市	S38
東海	岐阜	国立	岐阜工業	本巣市	S38
	静岡	国立	沼津工業	沼津市	S37
	愛知	国立	豊田工業	豊田市	S38
	三重	1 国立	鳥羽商船	鳥羽市	S42
		2 国立	鈴鹿工業	鈴鹿市	S37
		3 私立	近畿大学工業	名張市	S37

ブロック	都道府県名	区分	校名(キャンパス)	市区町村	設置年
近畿	滋賀	なし	※4		
	京都	国立	舞鶴工業	舞鶴市	S40
	大阪	公立	大阪公立大学工業	寝屋川市	S38
	兵庫	1 国立	明石工業	明石市	S37
		2 公立	神戸市立工業	神戸市	S38
	奈良	国立	奈良工業	大和郡山市	S39
中国	和歌山	国立	和歌山工業	御坊市	S39
	鳥取	国立	米子工業	米子市	S39
	島根	国立	松江工業	松江市	S39
	岡山	国立	津山工業	津山市	S38
	広島	1 国立	広島商船	豊田郡大崎上島町	S42
		2 国立	呉工業	呉市	S39
四国	山口	1 国立	徳山工業	周南市	S49
		2 国立	宇部工業	宇部市	S37
		3 国立	大島商船	大島郡周防大島町	S42
	徳島	1 国立	阿南工業	阿南市	S38
		2 私立	神山まるごと (令和5年4月1日開設)	名西郡神山町	R5
	香川	国立	香川 ※3 (高松)旧高松工業 (詫間)旧詫間電波工業	高松市 三豊市	S37 S46
九州	愛媛	1 国立	新居浜工業	新居浜市	S37
		2 国立	弓削商船	越智郡上島町	S42
	高知	国立	高知工業	南国市	S38
	福岡	1 国立	久留米工業	久留米市	S39
		2 国立	有明工業	大牟田市	S38
		3 国立	北九州工業	北九州市	S40
	佐賀	なし			
	長崎	国立	佐世保工業	佐世保市	S37
	熊本	国立	熊本 ※3 (八代)旧八代工業 (熊本)旧熊本電波工業	八代市	S49
				合志市	S46
	大分	国立	大分工業	大分市	S38
	宮崎	国立	都城工業	都城市	S39
	鹿児島	国立	鹿児島工業	霧島市	S38
	沖縄	国立	沖縄工業	名護市	H14

※1【学校数】国立:51 公立:3 私立:4 計 58校

※2【高専から大学への転換】 埼玉県: (私)聖橋高専(S37)→埼玉工業大学(S51)、 神奈川県: (私)幾徳高専(S38)→神奈川工科大学(S51)、 (私)桐蔭学園高専(S40)→桐蔭横浜大学(S63)
大阪府: (私)大阪高専(S37)→摂南大学(S50)

※3【高専の高度化再編】 仙台、富山、香川、熊本については、平成21年度の高度化再編によりそれぞれ統合

※4【今後の新設】 滋賀県: 県立高専を令和10年度開校予定で準備中

福岡市: 市立高専を令和11年度開校予定で準備中

愛知県: 県立高専を令和11年度(※最短)開校予定で準備中

学校数・学科数・学生数

柱①

1. 設置者別学校数、在学生数等の現状（令和7年5月現在）

	学校数 a (本科,専攻科)		本科 学科数 (注1)	本科 入学定員	本科 在学生数 b	専攻科 在学生数 b	1校当たりの在学生数 (本科,専攻科) b/a	
国立	51	51	175	9,420	47,998	2,715	941	53
公立	3	3	7	720	3,606	155	1,202	52
私立	4	2	4	395	1,701	44	425	22
計	58	56	186	10,535	53,305	2,914	919	52

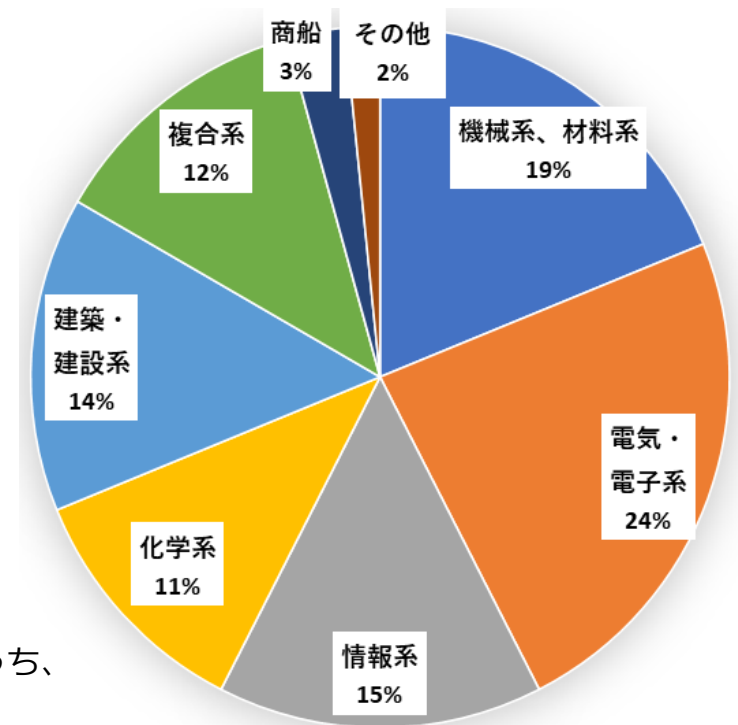
2. 本科分野別学科数・入学定員（人）（令和7年度）

区分	工 業								計
	機械系	電気・電子系	情報系	化学・生物系	建築・建設系	複合系 (注2)	商船	その他	
学科数	35	44	28	21	27	23	5	3	186
入学定員	1,445	1,805	1,245	845	1,080	3,795	200	120	10,535

(注)

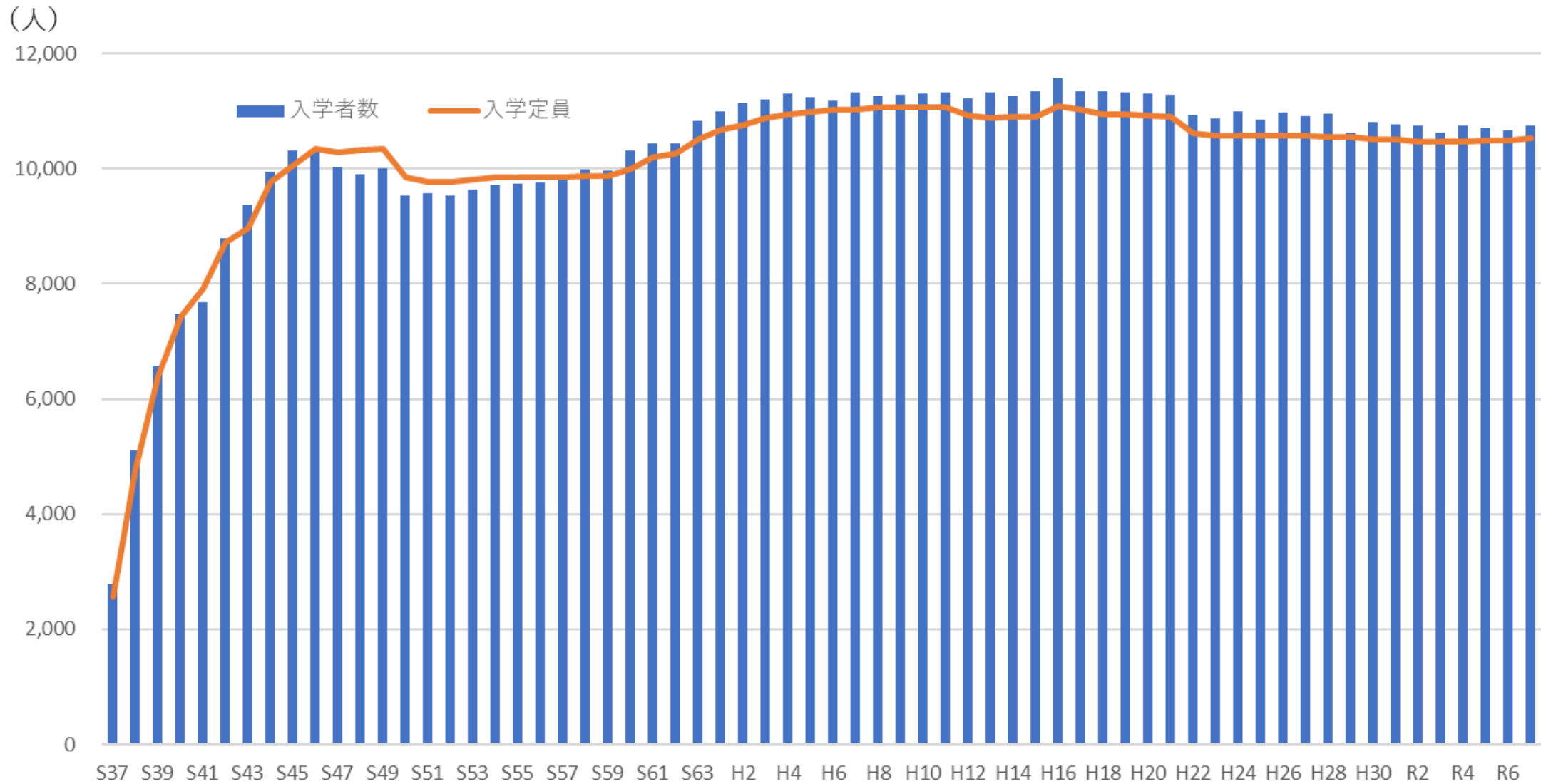
1. 学科再編による募集停止中の学科を除く。
2. 「機械系」「電気・電子系」「情報系」「化学・生物系」「建築・建設系」の各系統のうち、幾つかの系統を複合させた学科のこと。

3. 分野別学科数



入学定員・入学者の推移

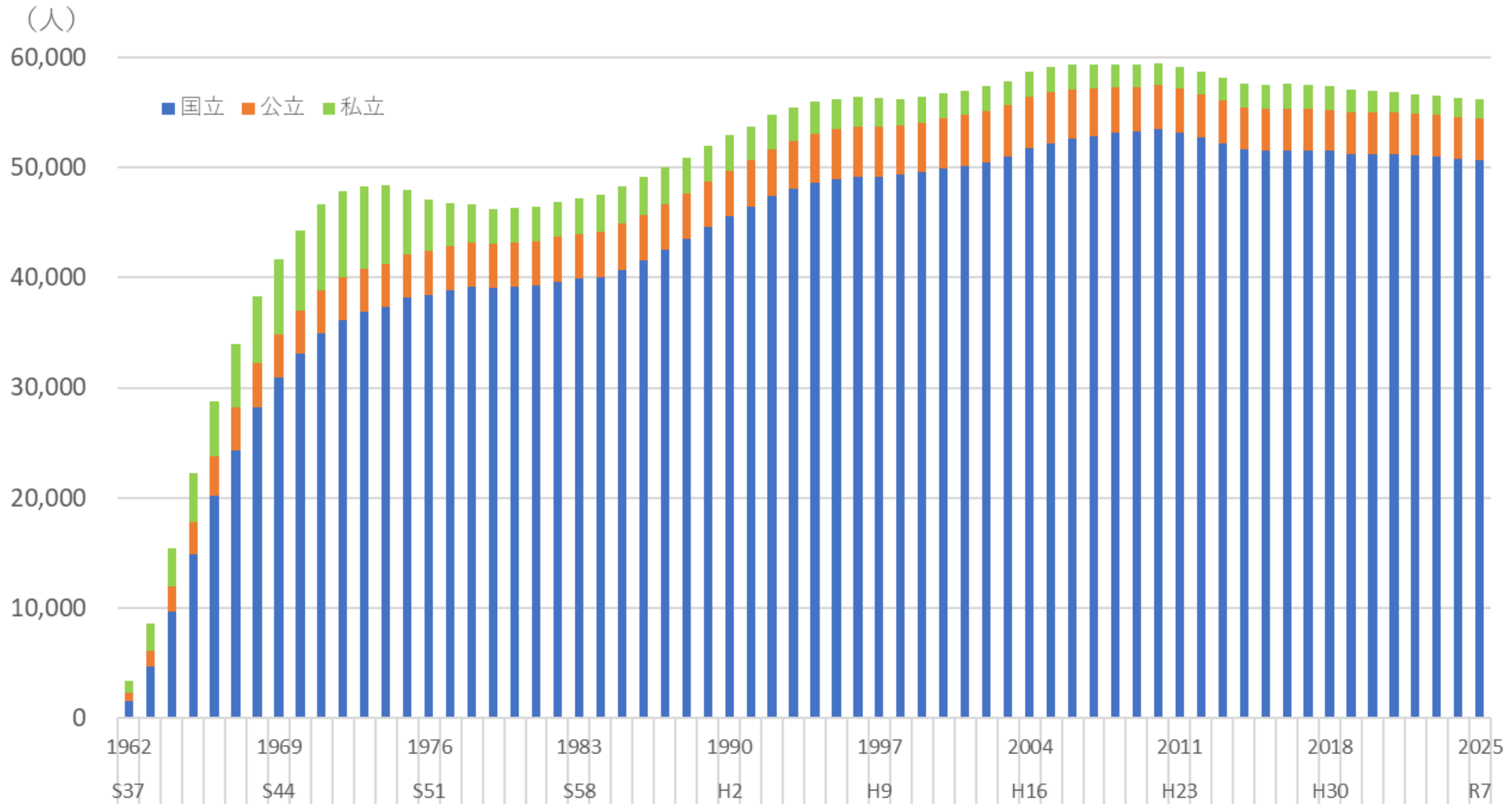
柱①



出典：文部科学省調べ

在学生数の推移

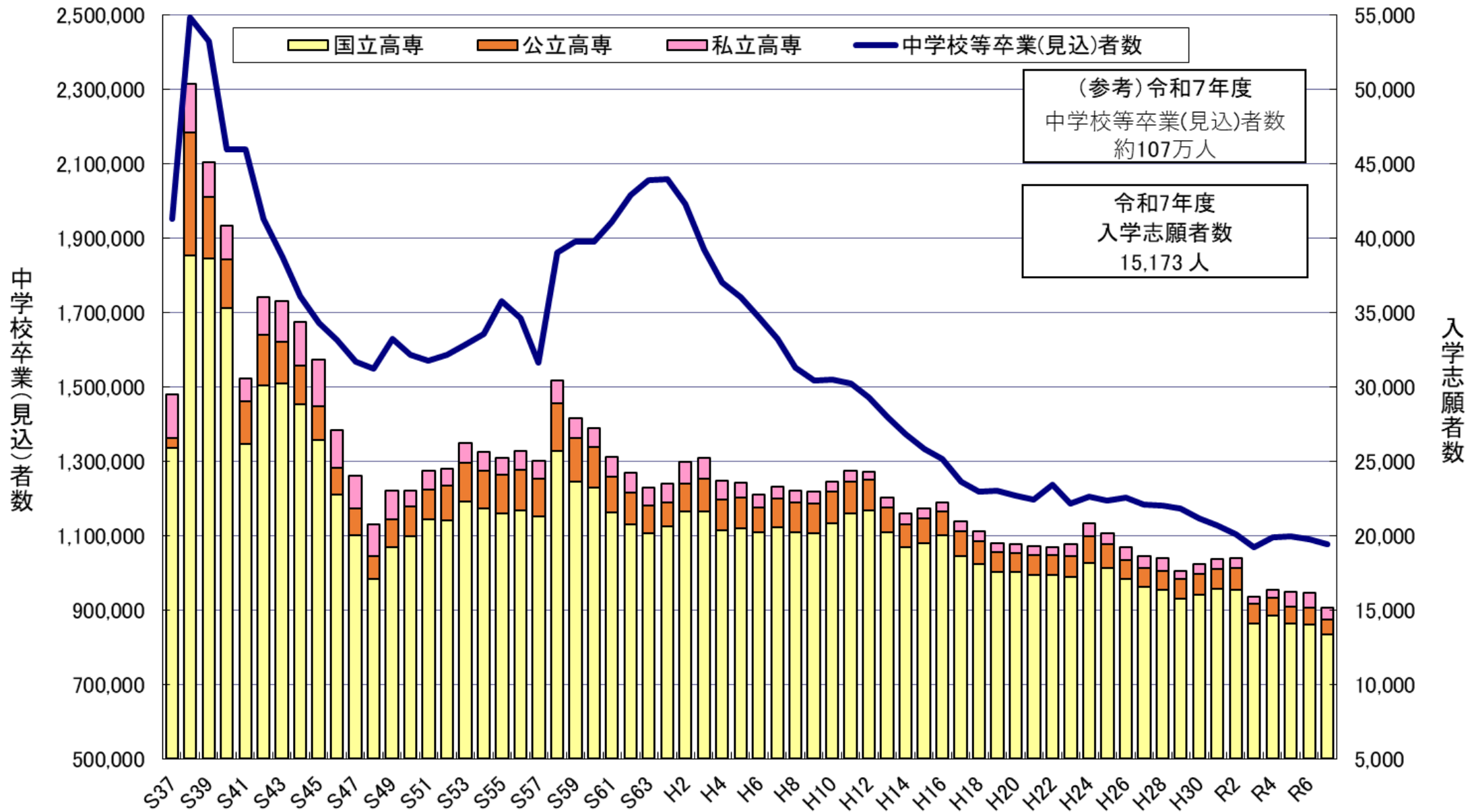
柱①



出典：文部科学省調べ

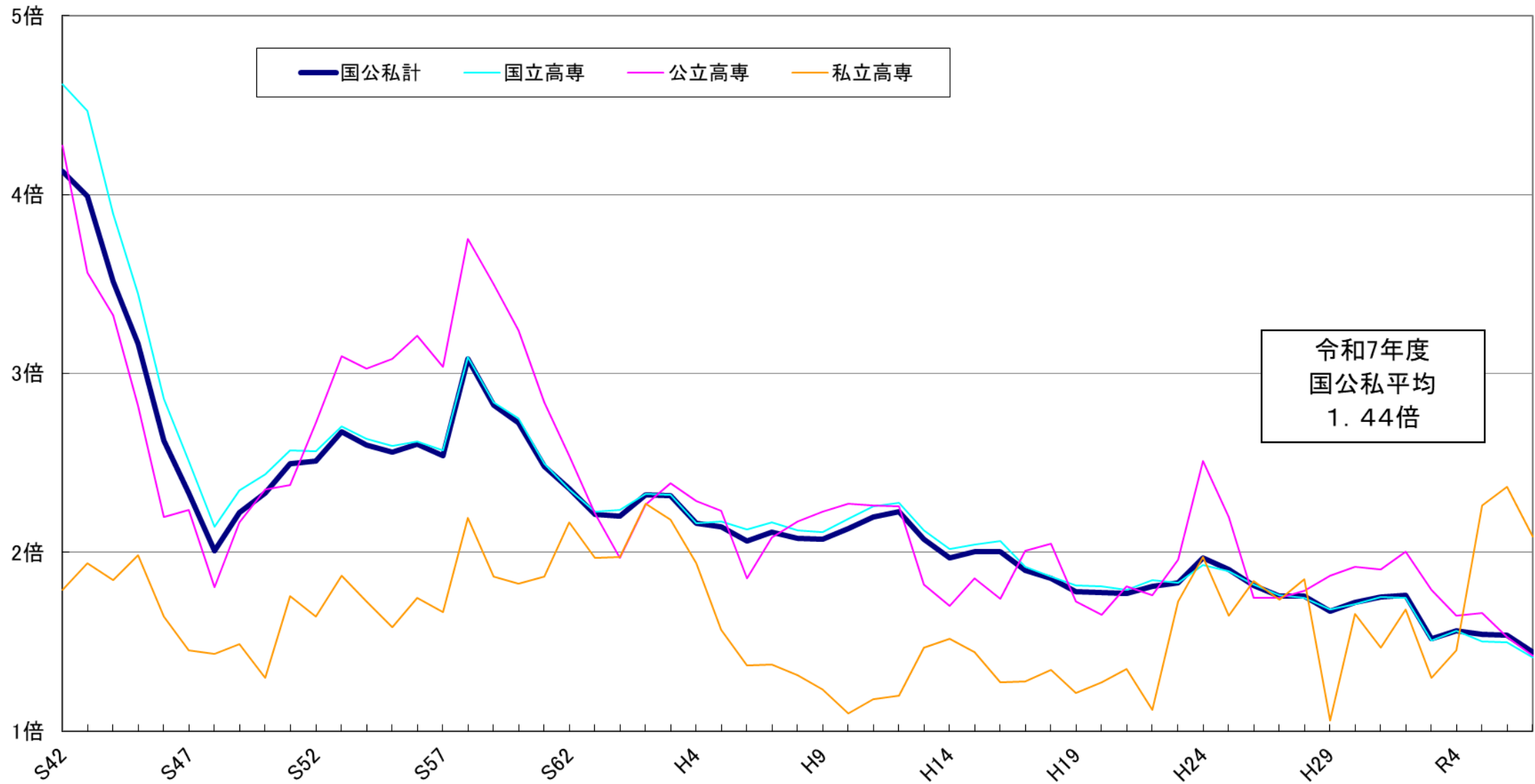
入学志願者推移

柱①



入学者志願倍率の推移

柱①

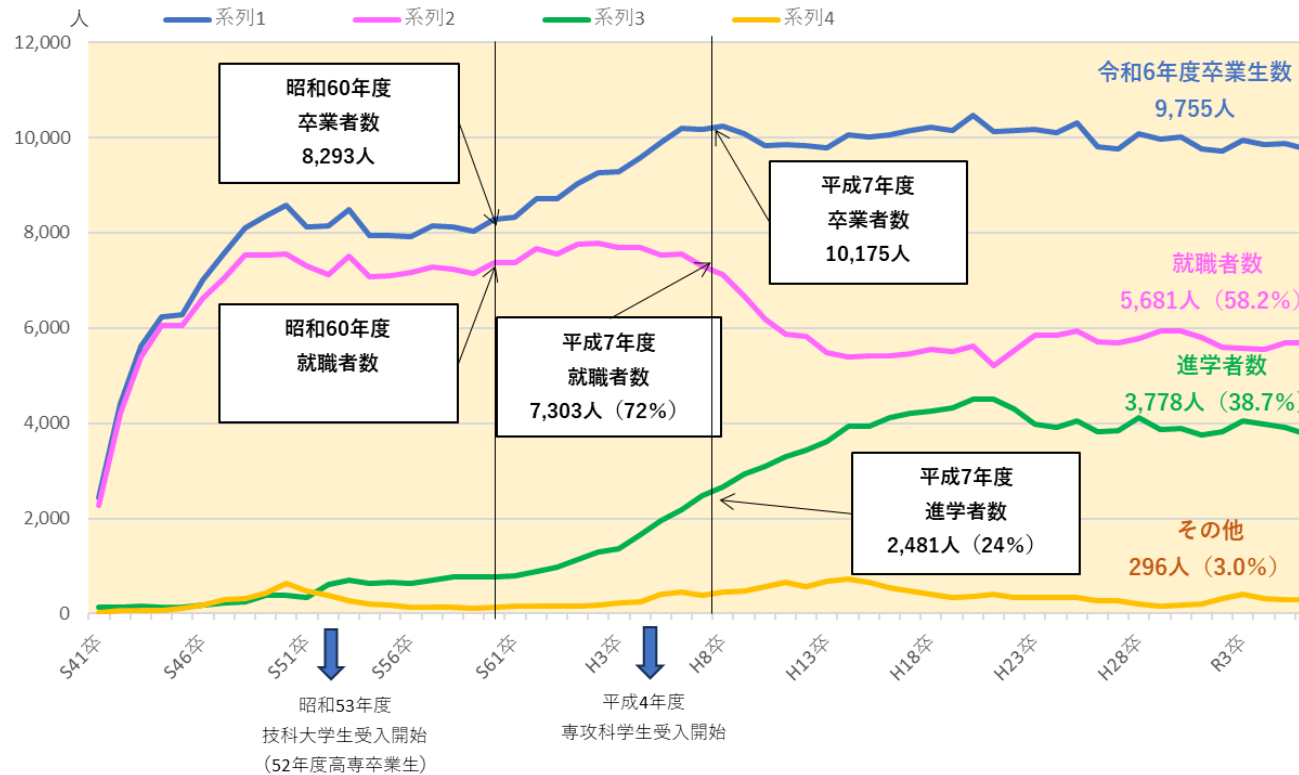


出典：文部科学省調べ

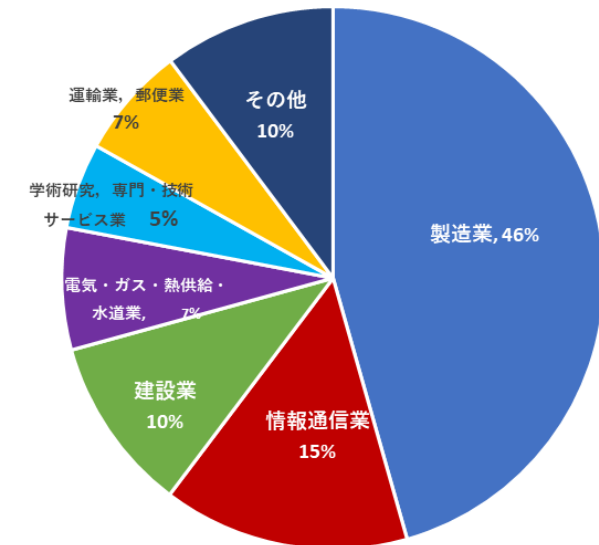
卒業生の状況

柱②

1. 卒業生の進路の状況



2. 卒業生の就職先（産業別） 令和7年3月



○就職希望者の就職率は、ほぼ100%

○就職者の約5割が製造業に就職するなど、我が国の経済産業を支える人材を輩出
職業別では約9割が技術者（専門的・技術的職業従事者）として就職

出典：令和7年度学校基本調査

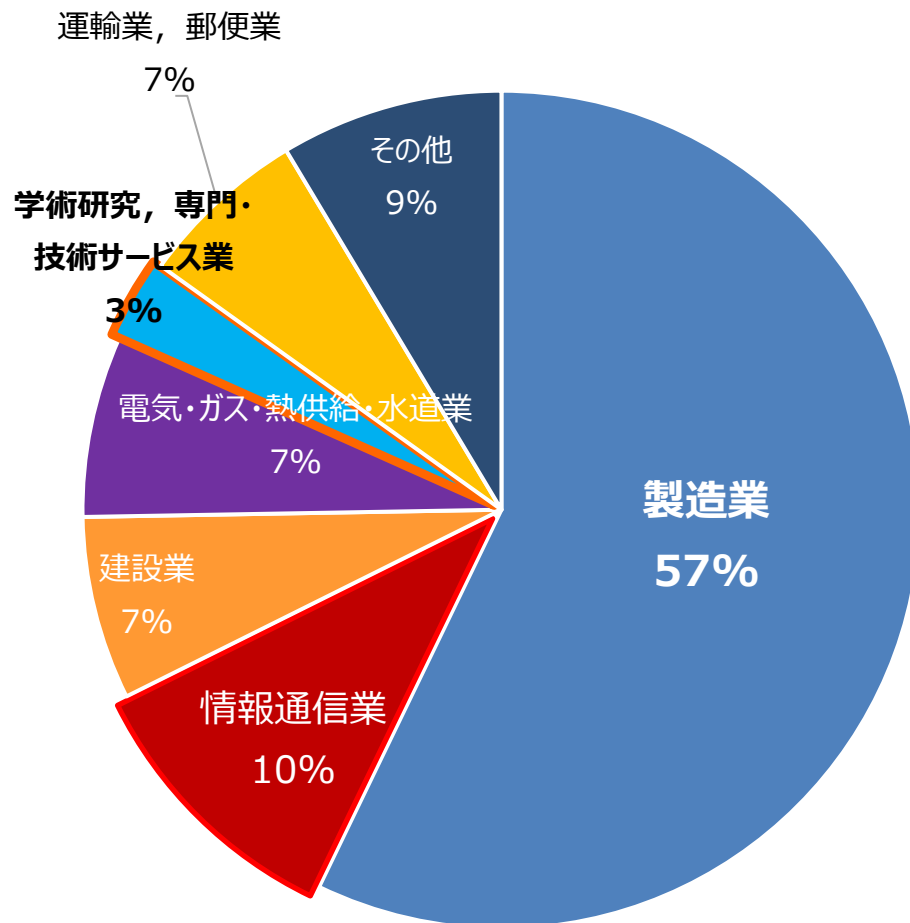
卒業生の産業別就職者数（平成21年度と令和7年度調査の比較）

柱②

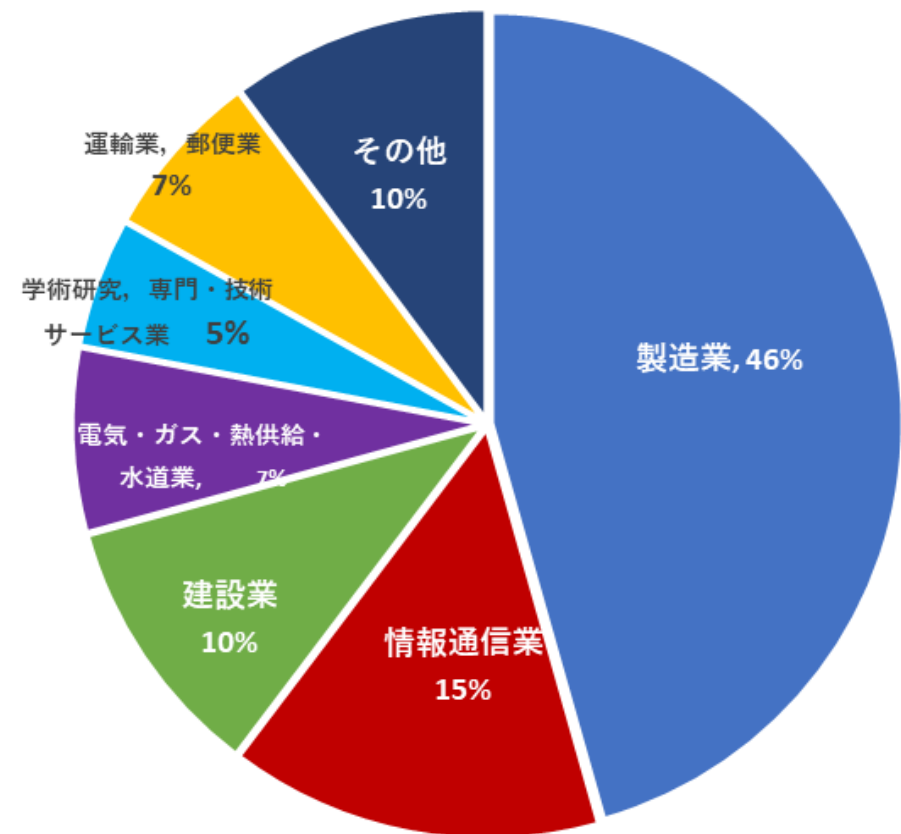
○産業構造の変化に伴い、卒業生の就職する業種も変化

- ・ 製造業の減少（57% → 46%）
- ・ 情報通信業の増加（10% → 15%）
- ・ 学術研究、専門・技術サービス業の増加（3% → 5%）

平成20年3月卒業生

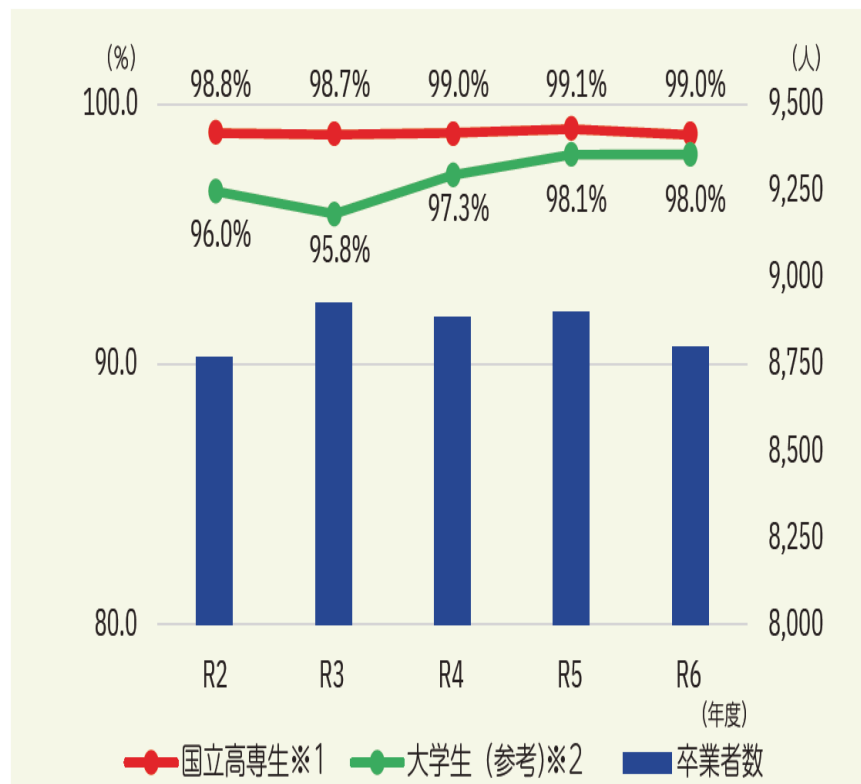


令和7年3月卒業生



就職希望者の就職率・求人倍率（国立高専）

本科卒業者のうち就職希望者の就職率



※1 令和7年5月1日現在

産業別就職者数（令和6年度本科卒業者）

産 業	人 数 (人)
製造業	2,311
情報通信業	787
建設業	546
電気・ガス・熱供給・水道業	376
運輸業、郵便業	300
学術研究、専門・技術サービス業	272
サービス業（他に分類されないもの）	161
公務（他に分類されるものを除く）	140
卸売業、小売業	75
不動産業、物品賃貸業	54
金融業、保険業	20
複合サービス事業	14
生活関連サービス業、娯楽業	10
教育、学習支援業	6
鉱業、採石業、砂利採取業	4
農業、林業	4
医療、福祉	4
宿泊業、飲食サービス業	2
漁業	1
その他	12
合計	5,099

（令和7年5月1日現在）

柱②

出典：国立高等専門学校機構2025概要

<令和6年度本科卒業者の求人倍率>



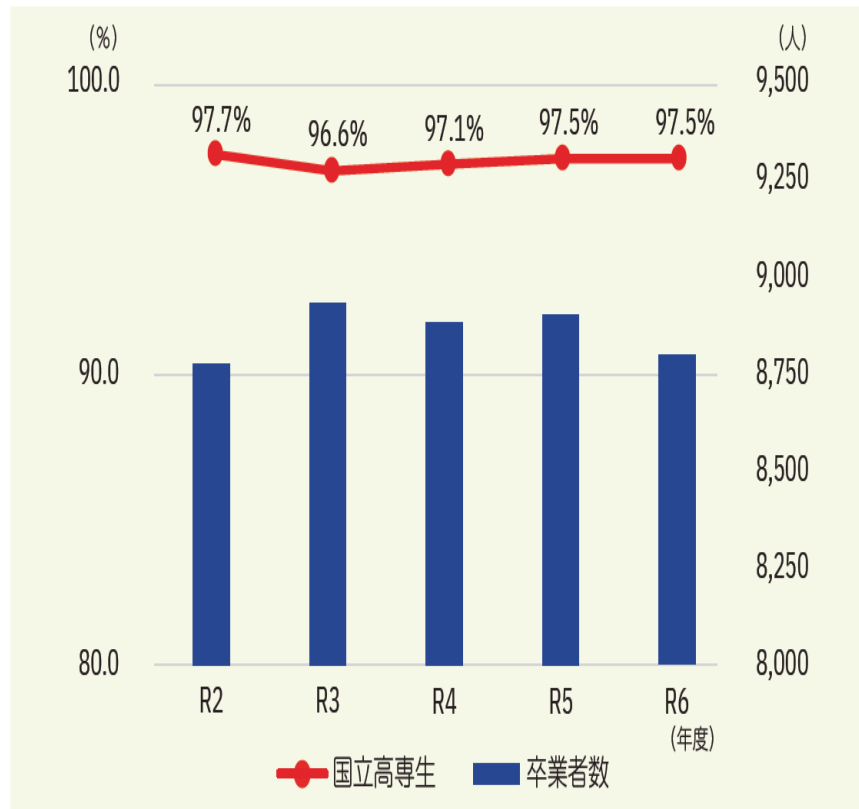
- ⇒ 希望者就職率は、ほぼ100%
- ⇒ 業種は製造業が最多
- ⇒ 求人倍率は極めて高い

出典：文部科学省調べ

進学希望者の進学率・編入先（国立高専）

柱②

本科卒業者のうち進学希望者の進学率



(令和7年5月1日現在)

主な大学への編入学状況

大学名	人数(人) R6	大学名	人数(人) R6
豊橋技術科学大学	368	福井大学	22
長岡技術科学大学	322	鹿児島大学	22
熊本大学	70	岐阜大学	20
東京農工大学	62	東京大学	18
九州工業大学	52	名古屋大学	18
金沢大学	49	名古屋工業大学	18
千葉大学	48	茨城大学	17
筑波大学	47	高知大学	17
岡山大学	47	千葉工業大学	17
大阪大学	42	東京都市大学	17
九州大学	42	電気通信大学	16
東北大学	40	山梨大学	16
広島大学	40	山口大学	16
信州大学	37	東京都立大学	16
東京科学大学	32	富山大学	15
京都工芸繊維大学	31	徳島大学	15
室蘭工業大学	30	愛媛大学	15
北海道大学	29	早稲田大学	15
宇都宮大学	26	秋田大学	14
横浜国立大学	26	島根大学	14
三重大大学	26	佐賀大学	14
奈良女子大学	25	立命館大学	14
群馬大学	24	岩手大学	13
新潟大学	23	東京海洋大学	13
神戸大学	23	大阪公立大学	13

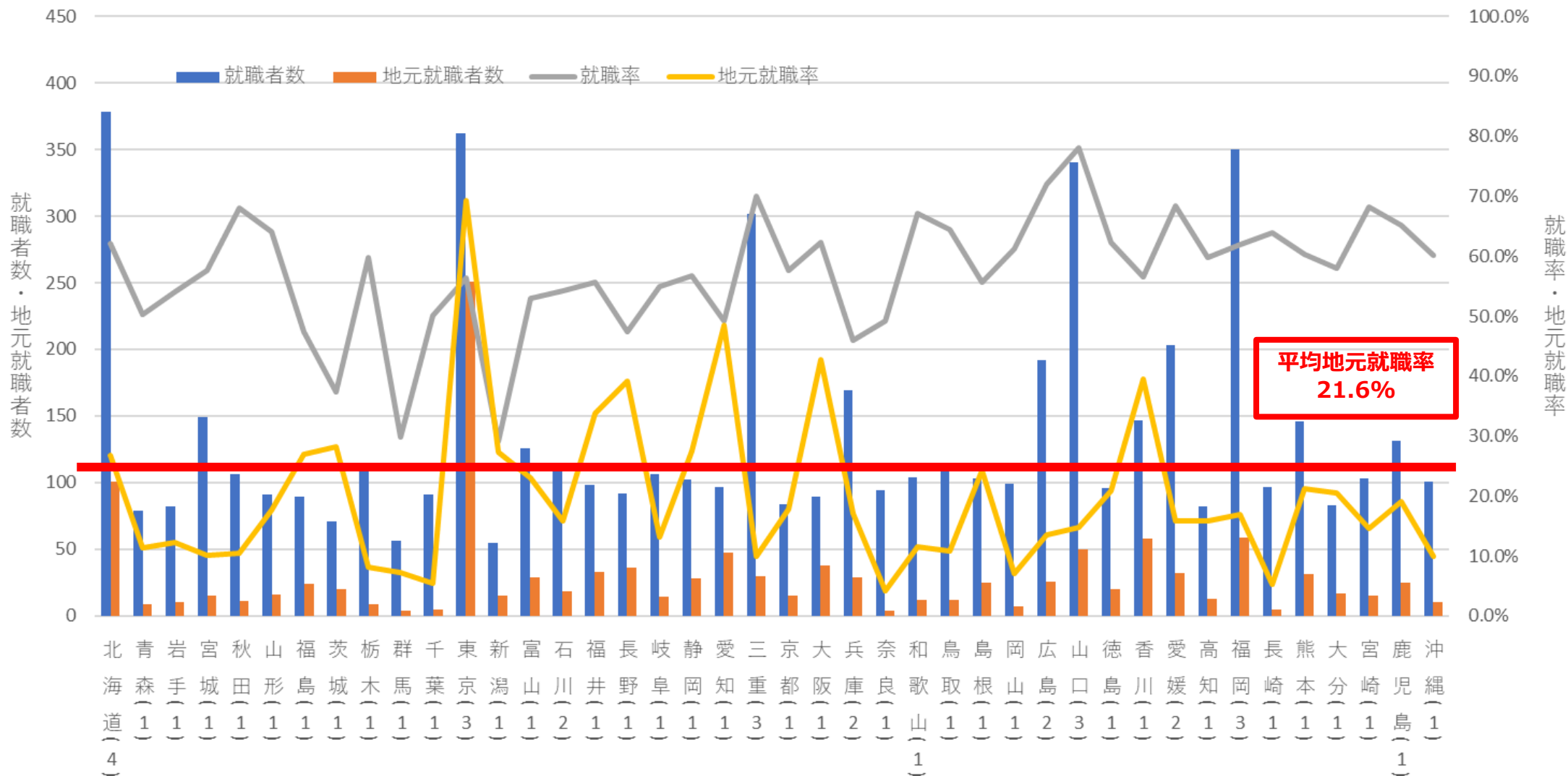
(令和7年5月1日現在)

⇒ 希望者進学率は、ほぼ100%、国立大学の3年次編入が多い

就職状況（令和6年度卒業生）

※本社・支社・営業所等にかかわらず、主な勤務先が学校が設置されている都道府県内の企業への就職者の数

柱②

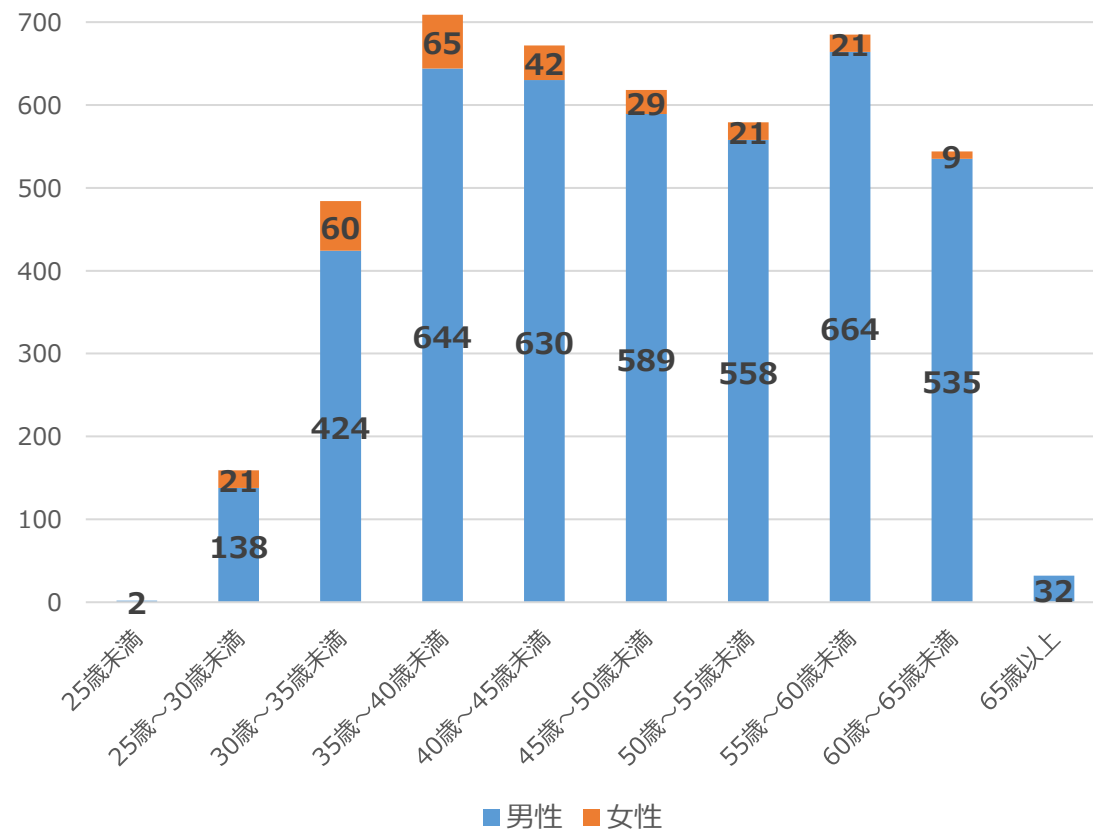


・（）内は設置されている高等専門学校の数

出典：文部科学省調べ

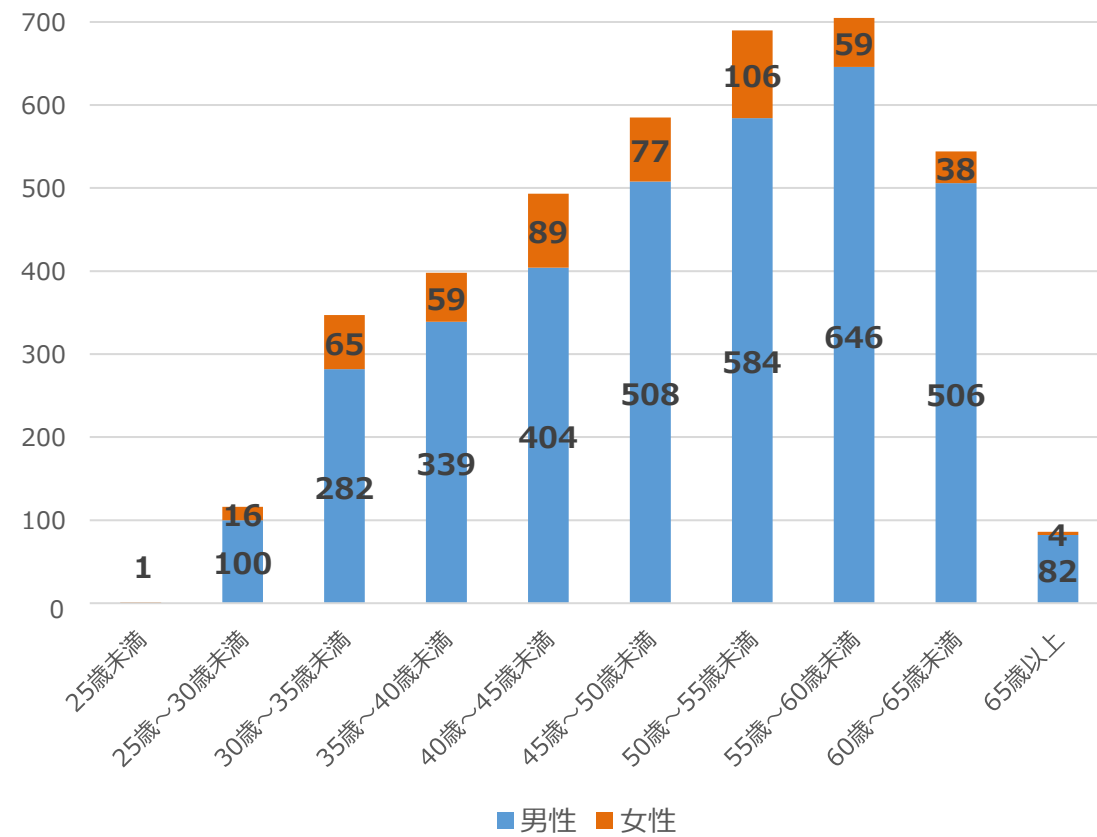
平成19年度

(人)



令和7年度

(人)



出典：文部科学省『学校教員統計調査』（令和7年度(中間報告)、平成19年度）

3. 特色ある教育等

実践的教育プログラム（国立高専）

柱②

○Society5.0時代に対応した先端・実践的技術教育の高度化と質保証へつなげるため、GEAR5.0（未来技術の社会実装教育の高度化）、COMPASS5.0（次世代基盤技術教育のカリキュラム化）の2つのプロジェクトを推進

KOSEN GEAR5.0 5分野6拠点



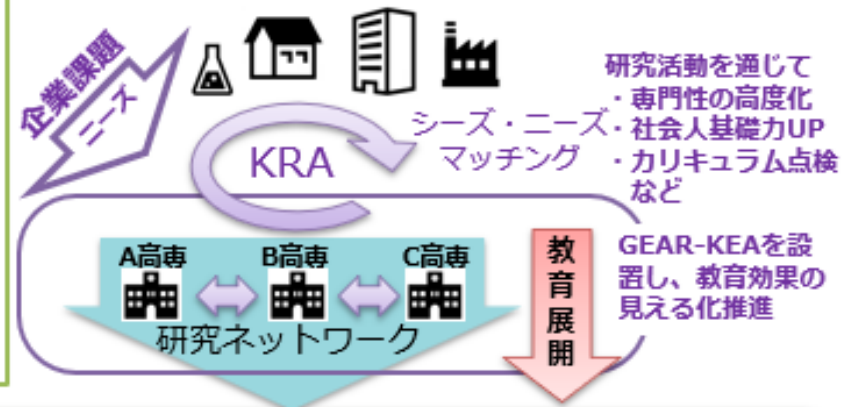
<実施事項>

- 学生参画による地域・企業の課題・解決の社会実装型研究
- 高専連携型研究
- 人事交流による集中型研究

<得られること>

- 研究成果（学生の成長・全国の地域創生）
- 研究ネットワーク（高専の研究力）
- 分野別の社会ニーズ（教育への展開）

企業シーズと地域課題を組み合わせることで解決し製品化へ



Society5.0により実現する未来技術の時代をリードする、高専発！の未来技術人財育成モデルを開発・展開

主体的で生涯学び続ける学生を継続的に育成するために・・・

GEARとCOMPASSを通じてカリキュラム点検（教育内容・方法）

⇒教育実践⇒教育の質保証へ

KRAとKEAが連携

KOSEN COMPASS5.0 7分野15拠点

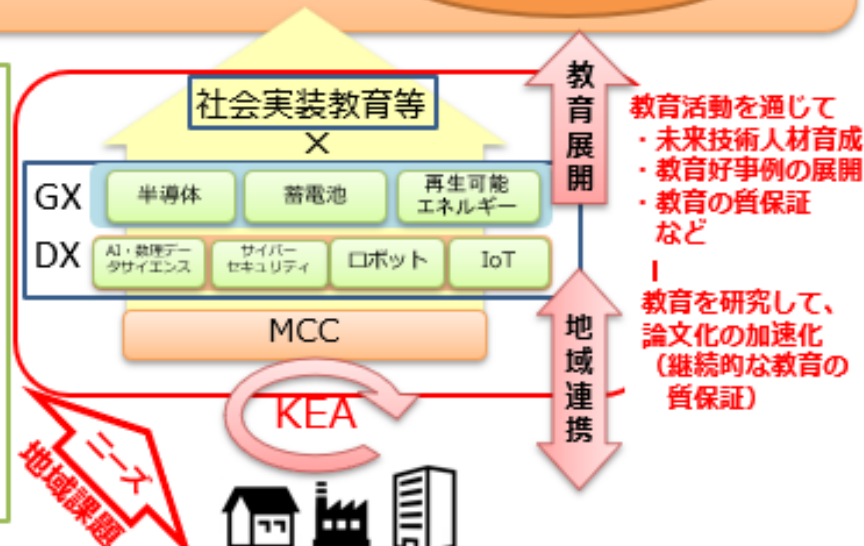


<実施事項>

- 到達目標の策定
- 教材開発
- 教育実践
- 高専への展開

<得られること>

- 未来技術をリードする高専生
- 社会ニーズに沿った教育の高度化（教育内容・方法、地域との連携教育）
- MCCのUPDATE



※KRA:
KOSEN Research Administratorの略であり、産学連携の強化、シーズとニーズのマッチング、外部資金の獲得、成果の全国展開・情報発信、社会実装を推進する職員。

※KEA:
KOSEN Education Administratorの略であり、拠点校間をつなぎ情報の共有及び拠点校の活動支援を行う職員。

GEAR5.0

～産学連携による高専の研究成果を活用した社会実装～

柱②

分野	拠点校	実践校、協力校
マテリアル	鈴鹿	4 高専：鶴岡、小山、呉、大分
介護・医工	熊本	6 高専：函館、仙台、長野、富山、徳山、新居浜
防災・減災(防疫)	沖縄	5 高専：鶴岡、長岡、和歌山、宇部、新居浜
防災・減災(エネルギー)	奈良	5 高専：苫小牧、長岡、和歌山、米子、都城
農林水産	鳥羽商船	4 高専：函館、一関、和歌山、阿南
エネルギー・環境	佐世保	5 高専：豊田、鈴鹿、奈良、久留米、大分

COMPASS 5.0

～産業界と連携した教育パッケージの開発・展開～

分野	拠点校	ブロック拠点校 (半導体のみ)	実践校、協力校
AI・数理データサイエンス	旭川、富山		7 高専：苫小牧、釧路、一関、石川、岐阜、佐世保、大分
IoT	仙台、広島商船		
サイバーセキュリティ	木更津、高知		8 高専：旭川、一関、小山、石川、岐阜、松江、佐世保、熊本
ロボット	東京、北九州		18 高専：函館、釧路、一関、福島、富山、福井、長野、沼津、鳥羽商船、舞鶴、和歌山、香川、佐世保、熊本、大分、都城、鹿児島、沖縄
半導体	熊本、佐世保	釧路、旭川	28 高専：函館、苫小牧、一関、仙台、秋田、鶴岡、木更津、東京、群馬、長岡、富山、岐阜、鳥羽商船、鈴鹿、舞鶴、奈良、和歌山、米子、津山、阿南、香川、久留米、有明、北九州、大分、都城、鹿児島、沖縄
蓄電池	石川、新居浜		4 高専：秋田、和歌山、奈良、米子 その他高専（大阪公立）
再生可能エネルギー（洋上風力）	函館、八戸、秋田		3 高専：一関、富山、鳥羽商船

成長分野と地域未来構想を支える高等専門学校

柱②



風力発電施設視察の様子

【分野⑨資源・エネルギー安全保障・GX】 秋田高専・八戸高専・函館高専

- ・洋上風力発電に係る促進区域等に位置する3高専が洋上風力促進地域の企業・行政と連携し、長きにわたり風力発電を担う人材を育成
- ・GX、環境調和、地域社会との連携を志向しつつ広くエネルギー関連分野を切り拓ける人材を育成

【分野⑨資源・エネルギー安全保障・GX】 石川高専・新居浜高専・大阪公立大高専

- ・蓄電池の製造・開発、利活用を通し、将来的にGX社会で活躍できる人材を養成
- ・産官学協力体制を構築し、製造分野、サプライチェーン企業との連携を強化
- ・関西蓄電池人材育成等コンソーシアムとの連携

【分野①AI・半導体】 熊本高専・佐世保高専・有明高専

- ・高専生が半導体に関する様々な知識・技術を学べる体制を構築するため、全国の高専の拠点校として九州・沖縄地区の全ての高専と連携してカリキュラムを開発
- ・開発したカリキュラムを全国の高専に展開することで、全国の高専で川上から川下までの半導体関連教育を実施
- ・TSMC、SIIQ、九州地区の大学との連携



学生向けバッテリー実習の様子



半導体デバイス工学における九州工業大学での実習の様子

研究の取組（国立高専）

柱②

- 国立高専においては、共同研究、科研費、受託研究において件数や獲得資金が増加傾向。

共同研究の状況



受託研究の状況



科研費の状況



参考 H16当時

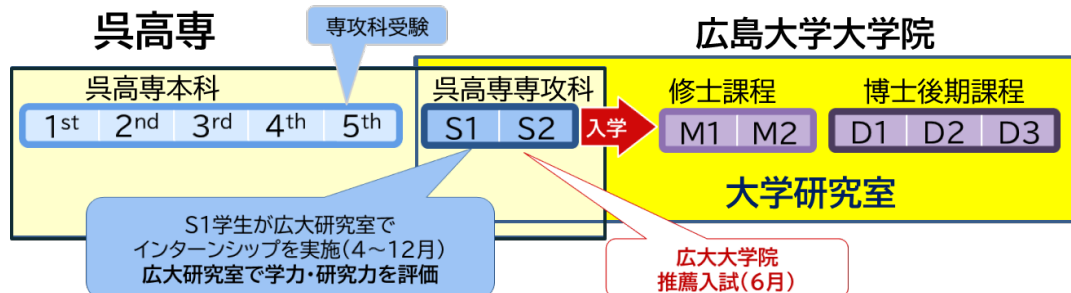
共同研究: 288百万円、409件

受託研究: 413百万円、155件

科研費: 644百万円、466件

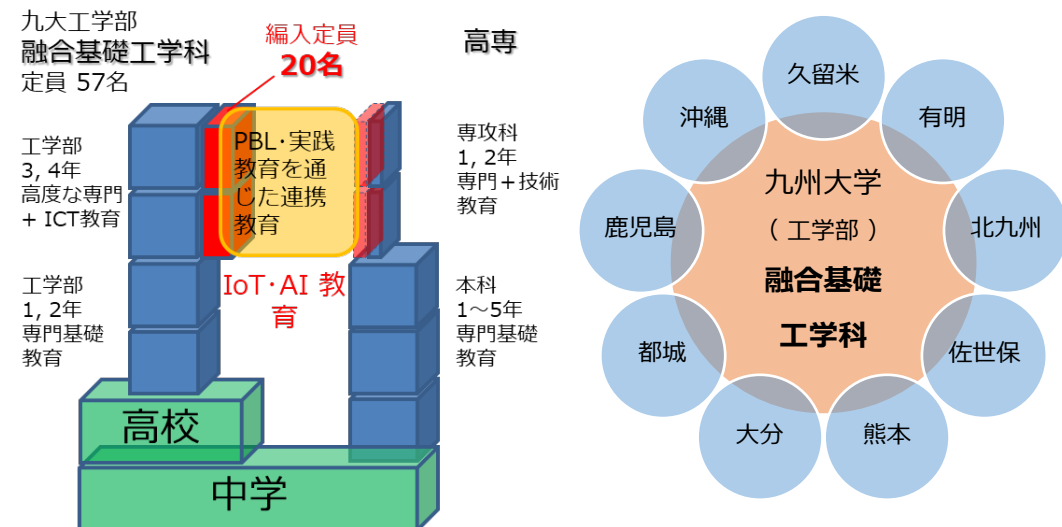
呉高専と広島大学の連携教育プログラム

- ◆ 専攻科学生（S1）が広島大学研究室で長期インターンシップを行い、**大学研究室での評価**手続を経て、校長推薦を行う**新型大学院入試**方式。
- ◆ **大学と高専の教員間で共同研究契約**を結び、専攻科学生が共同研究を推進。研究能力や適性が認められれば大学院に進学。



九州・沖縄地区9高専と九州大学との連携教育プログラム

- ◆ 九州大学との連携教育により、専門力をさらに高めつつ専門分野＋情報応用能力を身に付け、問題解決型学習に重きを置いた学びで俯瞰力と実践力を習得する「**新しい工学教育を展開**」



融合基礎工学科
工学系専門教育・情報科学教育・PBL教育

+

高等専門学校
早期専門教育・地域密着型・社会実装

アントレプレナーシップ教育強化（国立高専）

柱②

○アントレプレナーシップ教育と起業支援の好循環による高専型スタートアップエコシステムの構築

アントレプレナーシップ教育強化

起業したOB・OGの指導
⇒スタートアップエコシ
テムの構築



スタートアップ支援コ
ーディネーター

STEP 1 スタートアップを知る

- ・ビジネス、知財等に関する講義
- ・スタートアップ経験者による知見等の講義
- ・高専OB・OGの起業家データベースの活用



高専生 × 地域
(アントレプレナーシップ教育) (社会課題)
= 高度な社会実装教育

STEP 2 スタートアップを体験

- ・課題解決型・実習型の取り組みによる試作等
- ・研究・各種コンテストでイノベーション体験

STEP 3 スタートアップを実践

- ・起業家、コンサルタント等による起業希望者へのメンタリング
- ・地域の産官金との連携による地域課題解決
- ・スタートアップ教育実施及び全国展開

資金調達検討支援



高専の魅力発信の取組

取組例①（国公私高専）

○ KOSEN FES の実施

ポイント

- ✓ 小中学生や保護者に向けた
体験型イベント
- ✓ 高専の魅力や進路の理解促進を
図る取組

（内容）

- ・小中学生や保護者を対象に説明会を開催し、**高専の特色や魅力を発信**している。
- ・体験企画や学生との交流、個別相談を通じて、**高専での学びや進路について理解を深める機会を提供**している。



柱①

取組例②（国立高専）

○「高専女子プロフィール帳」の開設

（R6（2024）年度開設）

ポイント

- ✓ 高専女子のキャリア形成支援
- ✓ OGとの交流によるロールモデル提示

（内容）

- ・高専機構ホームページにおいて、「**高専女子プロフィール帳**」を開設。
- ・高専OGがプロフィール帳形式で、高専在学時の経験や、現在の仕事・研究内容等を紹介することで、**高専女子の多様なキャリアパスを発信**している。



取組例③（国立高専）

○女子中学生向けパンフレットの配布

ポイント

- ✓ 女子中学生に特化した分かりやすい広報ツール
- ✓ 高専での学びや学生生活への理解促進を図る
取組

（内容）

- ・女子中学生を主な対象として、「高専ってどんなところ？ 美羽のKOSEN探検」と題したパンフレットを作成・配布し、**高専での学びや学生生活を分かりやすく紹介**している。



取組例④（国立高専）

○高専女子フォーラムの実施

ポイント

- ✓ 女子高専生の成長・活躍を直接伝える発信
機会
- ✓ 女子中学生・保護者への高専理解促進

（内容）

- ・女子高専生が、女子中学生・保護者、企業関係者等を対象に、**専門教育や研究活動、学生生活を通じた自身の成長・活躍について発表・PRを行う**ことで、女子学生確保に向けた取組を推進している。



誰ひとり取り残さない学びの環境の充実（国立高専）

- 学生に寄り添い・支える体制の充実等により、早期かつスムーズな学生支援に繋げ、安心できる環境の中で学びの充実を継続

柱①

高専生の年齢は幅広い！（本科：15～20歳 専攻科：20～22歳）

1年生～3年生 《青年期（思春期）》 → 社会生活への適応を学ぶ時期
4年生以上 《初期成人期》 → 精神的・経済的独立を目指す時期

近年、心理的・社会的危機が増

自殺・事件・事故・留年・中退の
発生件数増！

高校生から大学生までの対応が必要



- 学生の孤立化
- メンタルケアの遅れ
- 学業継続の挫折
- 不本意な留年・中退増

①教員と専門職の連携支援体制の充実

学生支援の人的リソースの拡充
（人にしかできない支援を強化！）



スクールカウンセラー（SC）
によるカウンセリング



スクールソーシャルワーカー
（SSW）による
外部機関連携支援



専門職による
助言・支援
・研修

- ✓ 学生の学びの質の向上
- ✓ きめ細やかな学生対応
- ✓ 継続的な教員と専門職の連携支援体制

②教職員のスキルアップ

幅広い年齢層に対応した適切な
学生支援・学生指導力の強化



- ✓ 教職員の学生支援に関する基礎力の向上
- ✓ 早期学生支援による大きなトラブル減

4. 海外交流、留学生受入、KOSEN導入支援

- 全国 51 校の各国立高等専門学校において416機関と学術交流協定を締結している。
- 国立高等専門学校を設置する独立行政法人国立高等専門学校機構本部にて30機関と学術交流協定を締結している。

国立高専機構本部の包括的学術交流協定

国・地域	協定先機関名
インドネシア	スラバヤ電子工学ポリテクニク、国立ポリテクニク協会
シンガポール	ナンヤン・ポリテクニク、ニース・ポリテクニク、 リパブリック・ポリテクニク、 シンガポール・ポリテクニク、テマセク・ポリテクニク
タイ	キングモンクット工科大学ラカバン校、 キングモンクット工科大学トンブリ校、 泰日工業大学、教育省職業教育局、 プリンセスチュラポーン・サイエンスハイスクール、 タマサート大学工学部、ナコンパノム大学
台湾	國立聯合大學、國立臺北科技大學、國立高雄科技大學、 正修科学大學、中州科技大學
ベトナム	商工省、教育訓練省、ダナン大学
フィンランド	トゥルク応用科学大学、オウル応用科学大学、 メトロポリシア応用科学大学、 サウスイースタン応用化学大学
香港	香港職業訓練協議会
マレーシア	マラ工科大学
モンゴル	教育科学省、ウランバートル市

（令和7年3月31日現在）

学生の国別派遣（令和6年度）

国・地域	人数（人）
台湾	1,296
シンガポール	709
タイ	463
マレーシア	342
大韓民国	258
フィリピン	240
オーストラリア	180
アメリカ	151
ベトナム	129
カナダ	72
モンゴル	52
香港	50
フランス	42
フィンランド	35
英国	32
中国	31
ドイツ	28
インドネシア	27
ニュージーランド	27
スウェーデン	25
カンボジア	16
イタリア	12
オランダ	12
ベルギー	11
その他欧州	50
その他アジア	12
その他アフリカ	11
その他中東	6
中南米	6
その他大洋州	1
合計	4,326



KOSSEN Global Camp の様子（鹿児島高専）



プリンセスチュラポーン・サイエンスハイスクール（タイ）での科学技術研修時の様子（津山高専）

外国人留学生の受入について① (国立高専)

柱③

- 外国人留学生は3年次より編入学という形で原則受け入れている（国費留学生については、日本語教育センターで1年間の予備教育を受けることが前提）。
- 全国51校の各国立高等専門学校において、28カ国から約500名の外国人留学生を受け入れている（令和7年5月1日時点）。

国籍別留学生数

(人)

国名	国費		マレーシア政府派遣		モンゴル政府派遣		タイ政府奨学金		私費		計		合計
	本科	専攻科	本科	専攻科	本科	専攻科	本科	専攻科	本科	専攻科	本科	専攻科	
タイ	11	1	—	—	—	—	59	20	—	—	145	21	166
マレーシア	1	—	102	6	—	—	—	—	2	—	105	6	111
モンゴル	46	1	—	—	—	—	—	—	2	1	48	3	51
カンボジア	36	—	—	—	—	—	—	—	—	1	36	1	37
ラオス	34	1	—	—	—	—	—	—	—	—	34	1	35
インドネシア	29	2	—	—	—	—	—	—	1	1	30	3	33
ミャンマー	17	—	—	—	—	—	—	—	1	—	18	—	18
インド	9	—	—	—	—	—	—	—	—	—	9	—	9
チュニジア	7	—	—	—	—	—	—	—	—	—	7	—	7
ウガンダ	7	—	—	—	—	—	—	—	—	—	7	—	7
ベナン	5	—	—	—	—	—	—	—	—	—	5	—	5
イラン	5	—	—	—	—	—	—	—	—	—	5	—	5
中国	—	—	—	—	—	—	—	—	4	—	4	—	4
ブラジル	3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	3	—	3
ジンバブエ	3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	3	—	3
マダガスカル	3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	3	—	3
スリランカ	3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	3	—	3
ナイジェリア	2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2	—	2
フィリピン	2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2	—	2
メキシコ	2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2	—	2
カメルーン	2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2	—	2
モザンビーク	2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2	—	2
アルジェリア	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	1
キューバ	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	1
ケニア	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	1
クロアチア	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	1
ベトナム	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	1	—	1
マリ	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	1
合計	234	5	102	6	—	—	134	20	11	4	481	35	516

(令和7年5月1日現在)

【タイ政府奨学金】上段:PCSHSからの入学生 下段:タイ高専からの編入学生

(※) 在留資格「留学」により、本科又は専攻科に正規生として在籍する外国人留学生の人数



国際寮入寮者の集い（八戸高専）

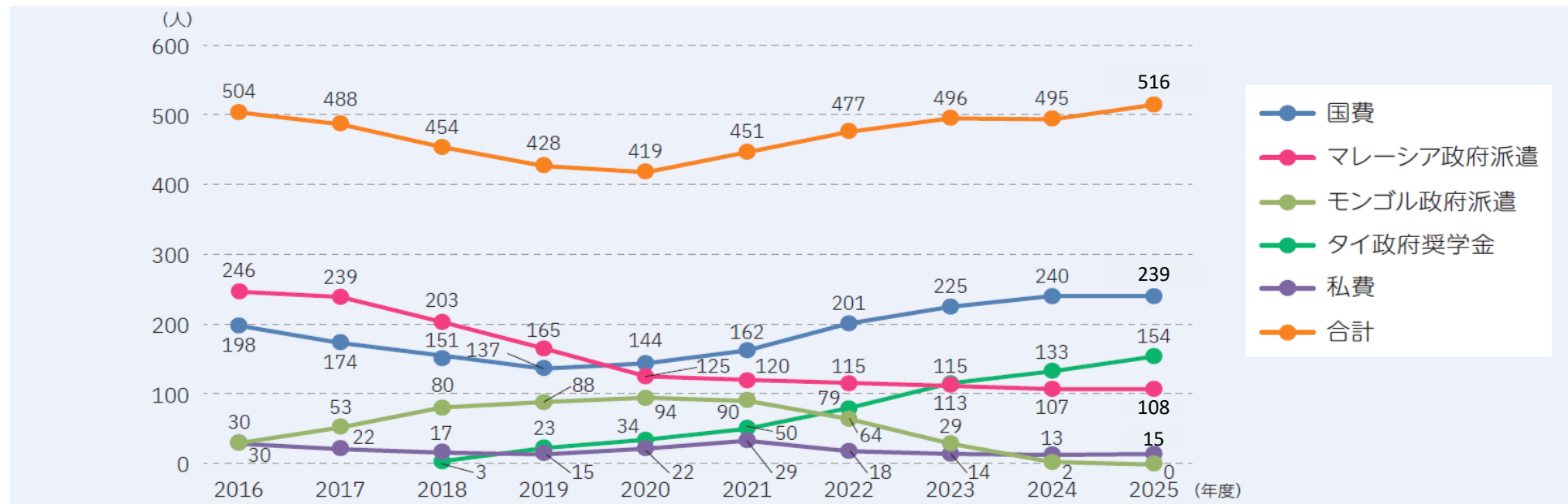


八戸高専による留学生日本語キャンプの様子（八幡平リゾートパノラマスキー場）

外国人留学生の受入について② (国立高専)

柱③

留学生数の推移



(各年度5月1日現在)

留学生の進路状況

【本科卒業者】

(人)

	卒業者数	就職	大学	専攻科	その他※
令和2年度	120	2	81	6	31
令和3年度	113	2	82	2	27
令和4年度	131	5	76	10	40
令和5年度	149	9	100	17	23
令和6年度	130	7	90	15	18

【専攻科修了者】

(人)

	修了者数	就職	大学院	その他※
令和2年度	8	7	—	1
令和3年度	8	3	2	3
令和4年度	9	6	2	1
令和5年度	2	—	1	1
令和6年度	15	3	5	7

※「その他」は帰国後に就職活動・進学準備を行う者を含む

高専（KOSEN）の導入支援の状況（国立高専）

柱③

- 「日本型高等専門学校教育システム（KOSEN）」の導入支援を各国のニーズに応じて展開。
- 現在、タイ、モンゴル、ベトナム、エジプトとの協力体制を構築。
- 国立高専機構本部が関係国立高専と連携し、学校の管理運営へのアドバイスや、教育カリキュラム・教材の共同開発、教員研修等の支援を実施。



タイ

- ・ タイの円借款事業で、2019年に日本型高専教育システムを導入した高専開設（タイ高専プロジェクト）
- ・ 現在 2 高専に898人が在籍（志願倍率約25倍と高い人気）、**2025年にKOSEN-KMITL二期生及びKOSEN KMUTT一期生が卒業**
- ・ 日本の国立高専へのタイ政府奨学金留学生受入れ



KOSEN KMUTT一期生卒業式
(2025.9)



モンゴル

- ・ 2014年、日本の高専を卒業したモンゴル人元留学生らの尽力によりウランバートルに3高専が設立
- ・ 2023年に3校の高専が新設される
- ・ 国立高専10校の支援体制を構築し、教員研修等の支援を実施
- ・ 2025年6月に七期生が卒業、卒業生はモンゴル国内での就職、進学のほか、日本国内の大学・高専専攻科へ進学、日本企業へ就職

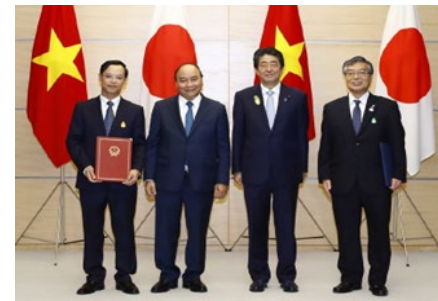


自民党国会議員団視察（2024.7）



ベトナム

- ・ 日本型高専教育モデルの導入に向けた協働（2019年7月覚書）
- ・ 2019年以降、ベトナムの3工業短大にKOSENモデルコース（3年制・5年制コース）を開講
- ・ 2024年度以降は、各高専とパイロット校3校との学校間交流を広範に推進



覚書の締結（2019.7 総理官邸）



エジプト

- ・ 2025年9月21日開校
- ・ 入学者49名、現員47名（1年次は括り入学）
- ・ 2年次から2コース制

Computer Science and Electronics
Smart Robotics and Green Energy



入学式（2025.9.21）

学位と称号について

柱③

「学位」：

学術の中心として、自律的に高度の教育研究を行う大学により、国際的通用性のある大学教育修了相当の知識・能力の証明として授与されるもの

※上記の原則を踏まえつつ、多様な学習成果を適切に評価して大学・大学院修了者と同等の水準にあると認められる者に対して、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構による学位の授与が、学校教育法第104条第7項に基づき認められている。

「称号」：

特定の学校を卒業したことについて、公に一定の価値・栄誉があるものとして、法令の規定により、本人が称することができるもの

		1991年 (平成3年)	2005年 (平成17年)
大学院	博士、修士 <u>(学位)</u>	博士、修士 <u>(学位)</u>	博士、修士 <u>(学位)</u>
学部	学士 (称号)	学士 <u>(学位)</u>	学士 <u>(学位)</u>
短期大学	卒業	<u>準学士 (称号)</u>	短期大学士 <u>(学位)</u>
高等専門学校	卒業	<u>準学士 (称号)</u>	<u>準学士 (称号)</u>

我が国の「教育資格枠組み」

柱③

レベル	教育資格	
8	博士	
7	修士	
	修士（専門職）	
	教職修士（専門職）	
	法務博士（専門職）	
6	学士（医学、歯学、薬学（臨床目的）、獣医学）	
	学士	
	— 以下の認定専攻科における単位修得に基づき NIAD-QE が授与するものを含む (*1) ・ 短期大学 ・ 高等専門学校	
5	学士（専門職）	高度専門士 (*2)
	短期大学士	準学士
	短期大学士（専門職）	専門士
	専攻科 2 年制以上修了証書 ・ 高等学校 ・ 中等教育学校後期課程 ・ 特別支援学校高等部	
4	専修学校専門課程 1 年制修了証書 専攻科 1 年制修了証書 ・ 高等学校 ・ 中等教育学校後期課程 ・ 特別支援学校高等部	
	卒業証書 ・ 高等学校 ・ 中等教育学校 ・ 特別支援学校高等部 ・ 専修学校高等課程	
3	高等専門学校 3 年次修了証書	
	高等学校卒業程度認定試験合格証書	
	卒業証書 ・ 中学校 ・ 義務教育学校 ・ 特別支援学校中学部	
2	中学校卒業程度認定試験合格証書	
	卒業証書 ・ 小学校 ・ 特別支援学校小学部	
1	卒業証書 ・ 小学校 ・ 特別支援学校小学部	

(*1) NIAD-QE が行う審査に合格した者のみ学士が得られる

(*2) 文部科学大臣認定を受けた課程の修了者は大学院入学資格が得られる

(*3) 大学、専門職大学、短期大学、専門職短期大学、高等専門学校には認証評価の受審義務がある

LEVEL	QUALIFICATIONS	
8	Doctoral degree [Hakushi]	
7	Master's degree [Shushi]	
	Master of xxx (Professional) [Shushi (Senmonshoku)]	
	Master of Education (Professional) [Kyoshoku shushi]	
	Juris Doctor [Homu hakushi (Senmonshoku)]	
6	Bachelor's degree (Medical, Dentistry, Pharmaceutical Sciences (Clinical), and Veterinary Medical Science) [Gakushi (Igaku, Shigaku, Yakugaku, Juigaku)]	
	Bachelor's degree [Gakushi]	
	-includes those of NIAD-QE based on credit accumulation at recognized advanced courses [senkoka] at (*1) ・ Junior College ・ College of Technology (KOSEN) Bachelor's degree (Professional) [Gakushi (Senmonshoku)]	
5	Associate degree [Tanki-daigakushi]	Advanced diploma [Kodo-senmonshi] (*2)
	Associate degree (Professional) [Tanki-daigakushi (Senmonshoku)]	Associate [Jun-gakushi] (*3)
	Diploma [Senmonshi]	
	Certificate of Completion of two or more year advanced course [senkoka] in: ・ Upper secondary school ・ Upper division, secondary education school ・ Upper secondary department, school for special needs education	
4	Certificate of Graduation of one year course in professional training college Certificate of Completion of one year advanced course [senkoka] in: ・ Upper secondary school ・ Upper division, secondary education school ・ Upper secondary department, school for special needs education	
	Certificate of Graduation ・ Upper secondary school ・ Secondary education school ・ Upper secondary department, school for special needs education ・ Upper secondary course, specialized training college	
3	Certificate of Completion of 3rd grade of regular course, College of Technology (KOSEN)	
	Certificate: Upper secondary school equivalency examination	
	Certificate of Graduation ・ Lower secondary school ・ Compulsory education school ・ Lower secondary department, school for special needs education	
2	Certificate: Lower secondary school equivalency examination	
	Certificate of Graduation ・ Elementary school ・ Elementary department, school for special needs education	
1	Certificate of Graduation ・ Elementary school ・ Elementary department, school for special needs education	

(*1) Those who have passed the assessment conducted by NIAD-QE can earn Bachelor's degrees.

(*2) Those who have completed the course designated by MEXT are eligible for admission to master's programs.

(*3) Conferred by Colleges of Technology (KOSEN)

(*4) Universities, professional and vocational universities, junior colleges, professional and vocational junior colleges, and Colleges of Technology (KOSEN) must undergo certified evaluation and accreditation (CEA).

(出典) 大学改革支援・学位授与機構資料

学位がないことに伴う不利益の例

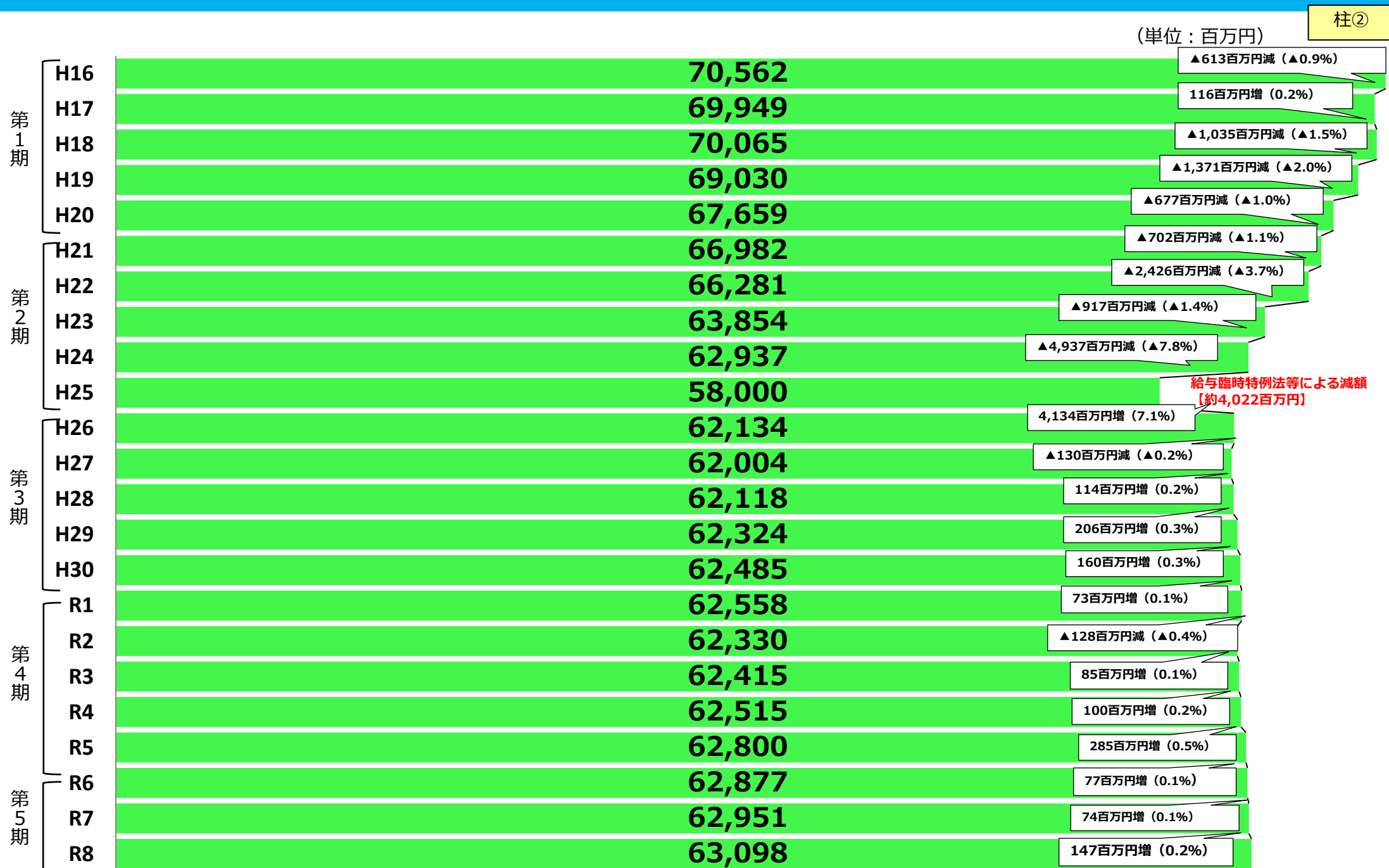
柱③

- 米国の大学に進学しようとしたところ、高専卒業について理解が得られず、大学学部へ編入学がうまくいかなかった。実際に大学工学部と同等レベルの専門科目の単位修得をしていたにもかかわらず、本科1年～3年までが高校相当とみなされ、単位認定数が27単位にとどまり、結局大学1年次に入学することとなり、学士号の取得に時間を要した。
- 台湾の大学の工学部に3年次編入学しようとしたが、認められず1年生からの入学となり、学士号の取得に時間を要した
- 高専卒業生がタイ国のワーキングビザを取得しようとしたが、学位がないためにビザの取得ができなかった。
- 海外留学における高専卒業後の学歴証明・海外大学編入・海外企業の就職・ビザ申請時に、卒業生本人が説明を要求された。
- 在学中の留学において、日本側の教育課程が学位授与を目的としたものではないため、単位互換が認められなかった。
- タイ高専から編入してきた学生については、本来タイ高専卒業生に付与される準学士の学位が授与されないことから、タイ側において学位を授与する案が検討された。一部の学生・保護者からは、日本への編入学を躊躇する意見も見られた。
- モンゴルおよびタイ高専では、卒業生に準学士(Associate Degree)を授与する法体系が整備されている。海外高専は日本の高専モデルを基に設立されており、日本の高専に準じたカリキュラムを導入・整備している中で、学位が授与されているのが現状。

(出典)文部科学省調べ

5. 高専関係予算

国立高等専門学校機構運営費交付金予算額の推移



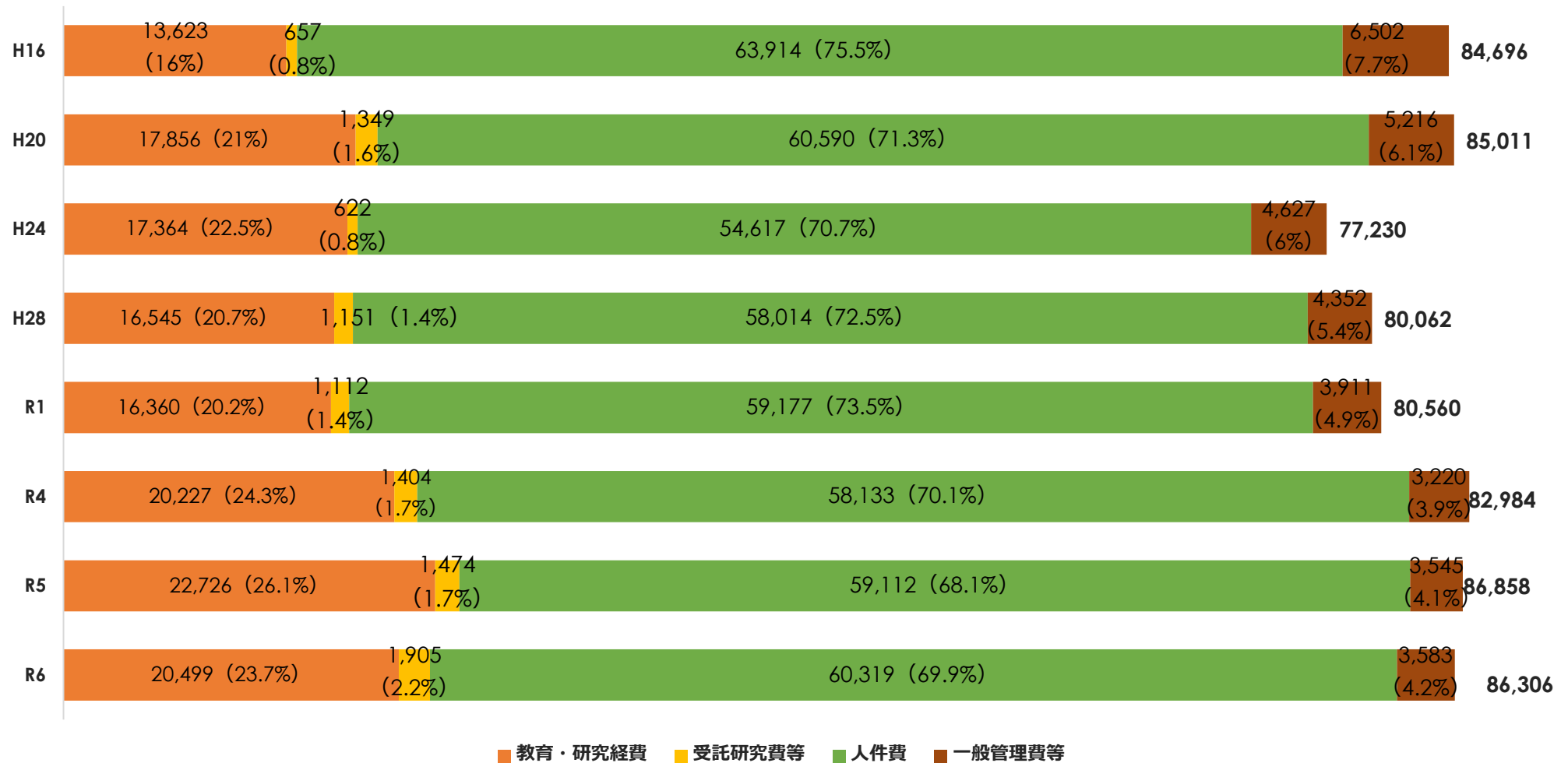
※平成25年度については給与臨時特例法等による減額分、平成26年度については同法の終了に伴う増額分が含まれる。
 ※令和2年度については別途、修学支援新制度の授業料減免分（約397百万円）を内閣府予算に計上。
 ※端数処理の都合、計数が一致しないことがある。

国立高等専門学校機構の経常費用の推移

柱②

- 人件費が経常費用の太宗を占める。
- 人件費・一般管理費は減少、教育・研究経費が増加。

(単位：百万円)



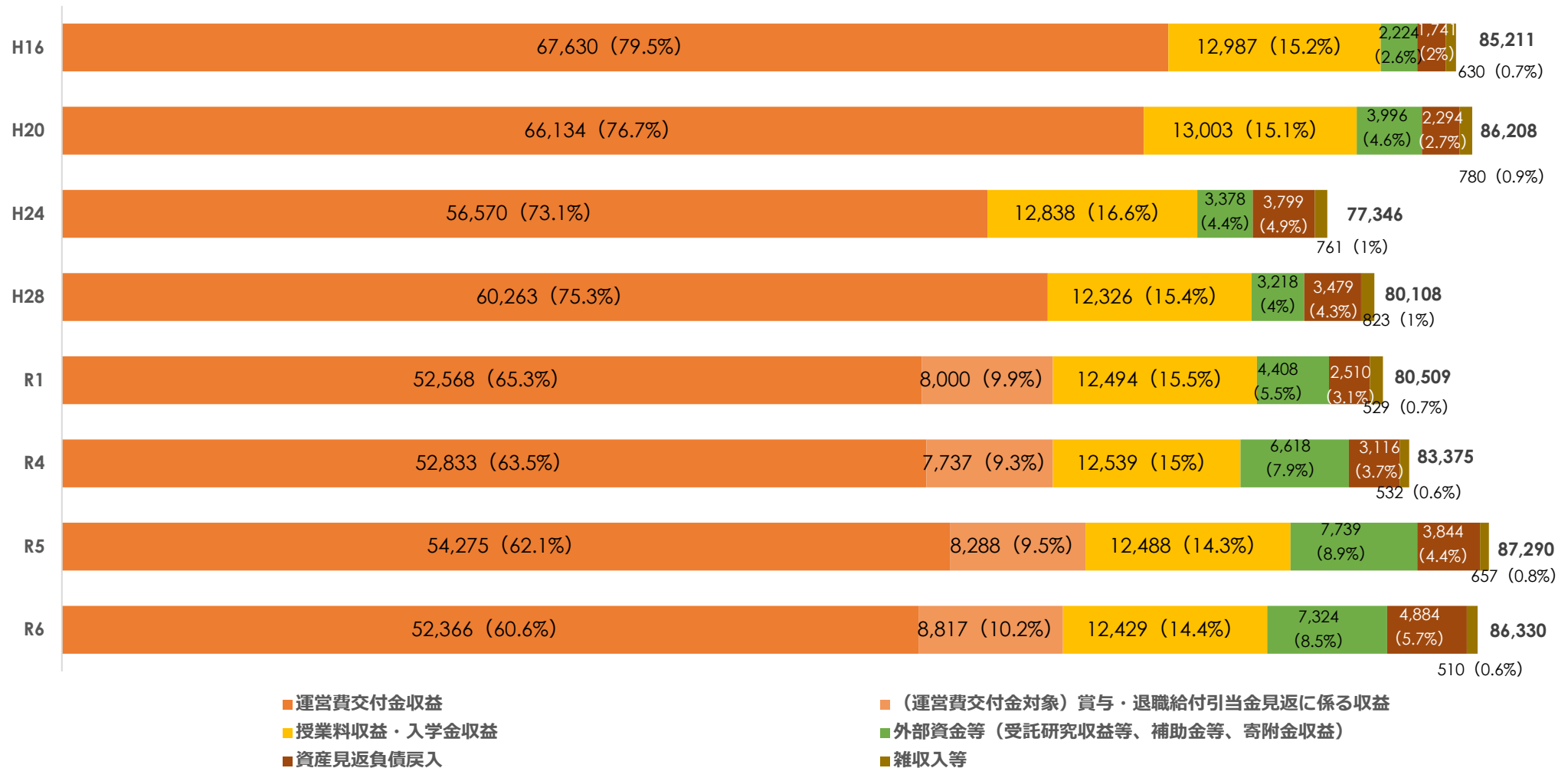
※財務諸表等を基に作成、端数処理により合計金額が一致しない場合がある

国立高等専門学校機構の経常収益の推移

柱②

- 経常収益は運営費交付金への依存度が高く、7割程度を占める。
- 法人化以降、外部資金等による収益は大きく増加。

(単位：百万円)



※平成31年3月の会計基準の改訂により、運営費交付金財源による賞与引当金及び退職給付引当金に係る会計処理が変更となった
 ※財務諸表等を基に作成、端数処理により合計金額が一致しない場合がある

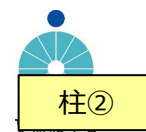
高等専門学校の高度化・国際化

令和8年度予算額
(前年度予算額)

631億円
630億円)

令和7年度補正予算額

70億円

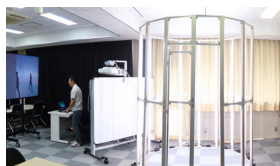


産業ニーズを踏まえた専門人材の育成や社会課題解決に貢献し、国や地域に新たな活力をもたらす高専教育を飛躍的に充実

高度化

◆アントレプレナーシップ教育の充実、スタートアップ創出支援

- 起業家工房を活用したアントレプレナーシップ教育や起業家や専門家による伴走支援など、地域課題解決に貢献する高専発スタートアップ創出に向けた体制を構築。



起業家工房の活用

◆高専発！「Society5.0型未来技術人財」育成事業

- 社会実装教育の高度化、成長分野をけん引する半導体、デジタル、エネルギー（蓄電池、風力）等の教育カリキュラムの構築を産学連携で推進。



半導体教材の開発

◆高専における学びの充実

- デジタル空間でのものづくり教育、大学・大学院や研究機関との連携教育プログラム、海洋人材育成の推進など、高専の学びの環境を充実。



小中学校への出前授業

国際化

◆海外で活躍できる技術者育成

- 世界と渡りあえる技術者育成のため、高専生の海外派遣を推進。海外教育機関と連携した国際交流プログラムを実施。

◆KOSENの導入支援と国際標準化

- 諸外国における高専の導入支援の継続、留学生の日本語教育体制の充実、国際的な質保証に向け国際標準モデルを展開。



モンゴル
(2014.9)



タイ
(2019.5)



ベトナム
(2019.9)



エジプト
(2025.9)

日本への留学生受入拡充
教職員の研修
学生の国際交流プログラムの実施 等



基盤的教育環境の整備

◆物価上昇等を踏まえた教育環境の維持

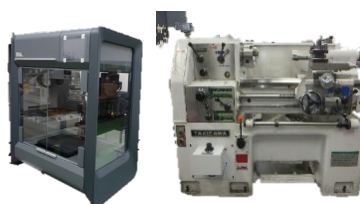
- 人件費、物価上昇等に対応し、高専における教育環境の維持に必要な経費を支援。

※一部、令和7年度補正予算に計上（14億円）

◆高専教育の基盤となる設備整備

- 基盤的な学修環境の整備、老朽化・陳腐化した設備の更新、機能の高度化に資する先端設備等の整備を実施。

※一部、令和7年度補正予算に計上（28億円）



金属3Dプリンタ、精密旋盤等

練習船の更新

※令和7年度補正予算
に計上（29億円）

◆広島商船高専練習船「新広島丸」の建造

- 代船建造により、学生等の安心安全、女性に配慮した環境、災害支援機能を備え、海洋人材の高度化を図る。



現広島丸

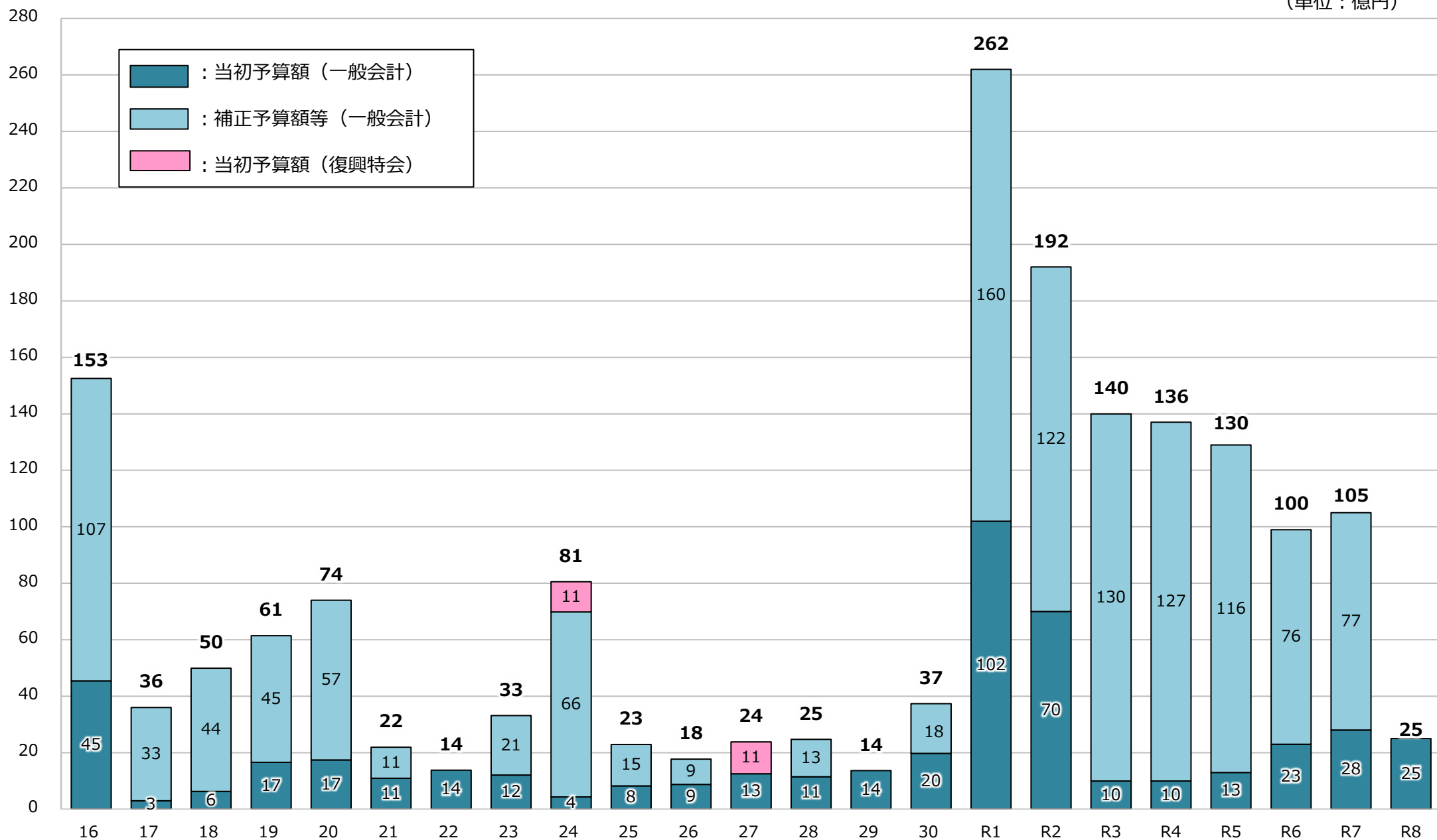


実習の様子

国立高等専門学校機構施設整備費予算額の推移

柱②

(単位：億円)



※四捨五入により合計は一致しない場合がある。

※補正予算額等には予備費を含む。

令和新時代高専の機能高度化プロジェクト計画期間

52

令和新時代高専の機能高度化プロジェクト計画【施設・設備計画】

施設

新しい時代にふさわしい国立高等専門学校施設の機能の高度化に向け、**国際寮の整備**や**老朽化が著しい学生寮、校舎等を集中的に改善整備**し、長期にわたる安全性の確保とともに、多様な学修形態等に対応できる生活環境、教育環境を実現する。

●**第1期（令和元年度～令和3年度）事業費 約480億円 措置済み:480億円 100%措置済み**

創設60周年に向けて、新たに国際寮の整備、早期改善の必要な老朽化が著しい学生寮等を中心に長寿命化改修により再生整備

●**第2期（令和4年度～令和6年度）事業費 約420億円 措置済み:420億円 100%措置済み**

老朽化した主要施設（校舎、学生寮等）の施設機能を高度化するため長寿命化改修により再生整備

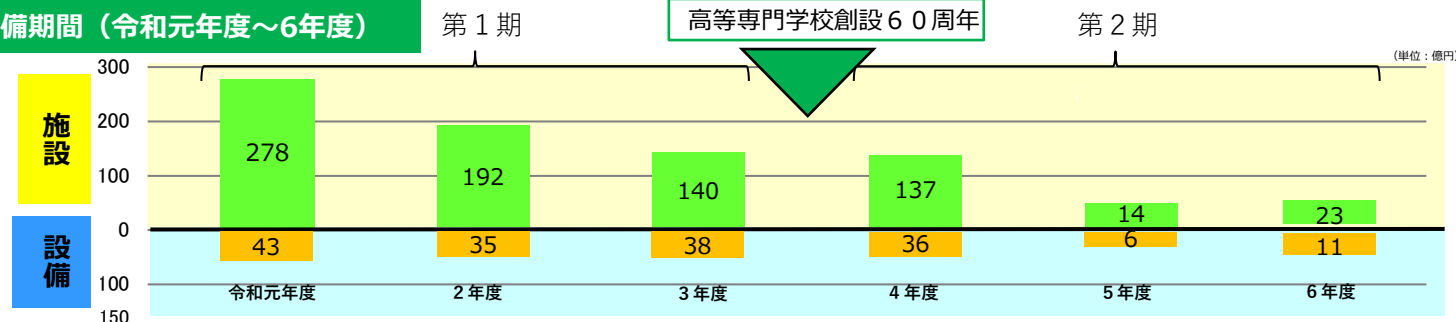
設備

新しい時代にふさわしい国立高等専門学校の**教育研究の高度化に向けた基盤的設備の更新・整備を集中的に実施**し、「ものづくり」を先導する人材育成を実現する。

●**（令和元年度～令和6年度）事業費 約180億円 措置済み:197億円（R6当初まで） 100%措置済み**

設備整備マスタープラン（今後整備が必要な設備をリスト化）に基づき、①老朽化・陳腐化が著しく更新を優先すべき設備、②各高専における機能の高度化に向け新規に必要な設備を導入

集中整備期間（令和元年度～6年度）



練習船

商船高専において新しい時代にふさわしい教育研究を実現するため、**老朽化が著しい練習船を計画的かつ集中的に更新**する。

●**（令和2年度～令和8年度）事業費 約45億円×5隻**

※1隻あたり2年の建造期間を予定

100%措置済み



	(令和)	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年
大島丸 (大島, 船齢29)	個別の設計							
弓削丸 (弓削, 船齢28)		個別の設計						
鳥羽丸 (鳥羽, 船齢28)			個別の設計					
若潮丸 (富山, 船齢28)				個別の設計				
広島丸 (広島, 船齢27)					個別の設計			

※船齢順に着手、船齢は、予算措置が開始された時点のもの

第6次国立大学法人等施設整備5か年計画（R8～12年度）（国立高専）

（令和8年3月31日 文部科学大臣決定）

柱②

国立大学法人等に求められる役割

- 「**知と人材の集積拠点**」として複雑化する社会課題に教育と研究を通じて挑み、その成果を社会に還元することで**地域や世界と共に発展**
- 我が国の高等教育と学術研究の水準の向上・発展を図るための「**国家的な資産**」であり、**地域の貴重な「公共財」**でもある国立大学法人等のキャンパス・施設を、**多様なステークホルダーが「共創」する拠点、安全・安心な拠点として整備**

施設の目指す方向性

キャンパス全体の イノベーション・コモンズ（共創拠点）の実装化

多様で高度な知・人材・付加価値を生み出すため、共創拠点への転換をキャンパス全体に拡大し、多様な活動の相乗効果で更なる成果を創出



戦略的リノベーション等
による老朽改善整備

地域の防災拠点の実現

災害発生時、多様なステークホルダー等の安全確保や教育研究活動を継続するための耐災害性の強化
災害拠点病院や地域の避難所等としての防災機能の強化

整備の方向性

- ✓ 我が国最大・最先端の「**知のインフラ**」を最大限活用
- ✓ **研究力強化**への対応、**地域や産業界との共創活動を促進**
（研究インテグリティ・研究セキュリティの確保にも留意）
- ✓ 災害発生時の**安全確保、教育研究活動の継続性の確保** など

施設マネジメントの方向性

- ✓ ミッションや経営戦略等を踏まえた**施設総量の見通し**の明確化
- ✓ 全学的な体制の下で**中長期的な施設整備計画を再構築**
- ✓ **財源の多様化の推進** など

イノベーション・コモンズ：キャンパス全体が有機的に連携し、ソフト・ハードの取組が一体となり、あらゆる分野、あらゆる場面で、あらゆるプレーヤーが共創することで、新たな価値を創造できる拠点



デジタル化の体制強化



社会実装の推進



企業等とのオープンラボ



地域との屋外共創空間



リカレント教育の場



国際化・交流空間

国立大学・高専等施設の整備

令和8年度予算額 364億円
(前年度予算額 364億円)

柱②

令和7年度補正予算額 802億円

現状・課題

- 急速な少子化や生産年齢人口の減少による地域社会の疲弊や、気候変動等による大規模自然災害の激甚化・頻発化等、国立大学法人等には多様化・複雑化する社会的な課題に対応する「知と人材の集積拠点」としての役割が求められている。
- 一方、築25年以上の建物面積の約半数が老朽化しているに加えて、昭和40～50年代に整備した膨大な施設の更新時期が到来し、**安全面、機能面、経営面で大きな課題を抱えており、その対応が急務**である。



劣化した配管の漏水による断水

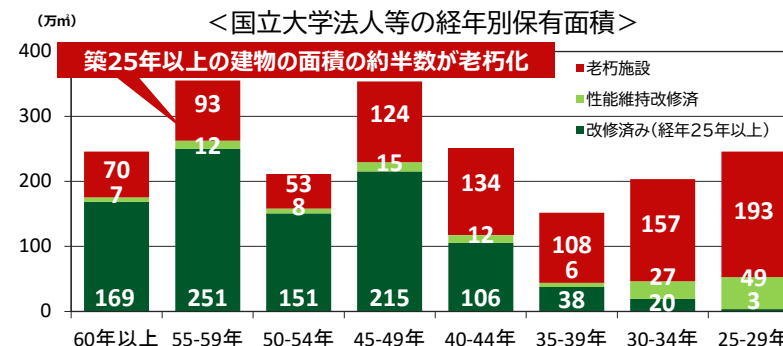


過密で陳腐化した研究室



非効率な旧型熱源装置

安全面 老朽化による**事故発生が頻発** **機能面** スペース不足、**教育研究機能の低下**
経営面 エネルギーロス等による**財政負担の増大**



国立大学等施設の目指す方向性

「第6次国立大学法人等施設整備5か年計画（令和8～12年度）策定に向けた中間まとめ」より

地域と共に発展するキャンパス全体の イノベーション・コモンズ（共創拠点）の実装化

大学等の施設を活用し、産学官金等の有機的なつながりや共創活動を活性化することで、**地域課題の解決や新産業の創出等、その成果を地域に還元**

※イノベーション・コモンズ：キャンパス全体が有機的に連携し、ソフト・ハードの取組が一体となり、あらゆる分野、あらゆる場面で、あらゆるプレーヤーが「共創」することで、新たな価値を創造できる拠点



地域の防災拠点の実現

災害発生時、多様なステークホルダー等の安全確保や教育研究活動を継続するための耐災害性の強化
災害拠点病院や地域の避難所等としての防災機能の強化

事業内容

今後策定する「第6次国立大学法人等施設整備5か年計画」に基づき、国立大学法人等施設の戦略的なリノベーション等を基本とした、キャンパス全体の**イノベーション・コモンズ（共創拠点）の実現に向けた取組の更なる推進**と、**耐災害性等の強化による地域の防災拠点の実現**を目指す。
その際、令和7年度補正予算と一体で、物価高騰を踏まえた必要な整備量の確保を図る。

①耐災害性の強化

耐震対策・防災機能強化、老朽改善、ライフラインの計画的な更新



②イノベーション拠点の強化等

安全確保と併せた人材育成、先端研究、グローバル化等に貢献する施設整備、附属病院の再生



③カーボンニュートラルに向けた取組

老朽改修と同時にZEB化を推進するための先導モデル事業の実施、省エネの取組の加速化



(担当：大臣官房文教施設企画・防災部計画課)

現状・課題

- **少子高齢化**に加え、2040年には、**生産年齢人口の減少による働き手不足**により、我が国の社会・産業構造の大きな変化が見込まれる一方で、今後求められる理系人材を輩出する**理系学部**の定員が**未だ少ない**状況。
- また、日本成長戦略本部において、「**未来成長分野に挑戦する人材育成のための大学改革、高専等の職業教育充実**」について検討課題とされており、**半導体等の重点分野に関する人材育成を迅速に取り組む**必要。
- さらに、成長分野における即戦力となる人材育成を行う高専について、**公立高専の新設**の動きもある状況。

<2040年の産業構造・就業構造推計>

	管理職 職業	専門的技術的職業 うちAI・ロボット等 の活用を担う人材	事務	販売	サービス	生産工程	輸送・機械 運転	運搬・清掃・ 包装等		
全職業	2040年の労働需要 (2040年の労働需要推計、※現在 の人口を前提、大規模)	124 ^{※A} (175万人)	1387 ^{※A} (1338万人)	498 ^{※A} (172万人)	1166 ^{※A} (1380万人)	735 ^{※A} (780万人)	714 ^{※A} (724万人)	865 ^{※A} (980万人)	193 ^{※A} (168万人)	415 ^{※A} (208万人)
	供給とのミスマッチ	51 ^{※A}	-49 ^{※A}	-326 ^{※A}	214 ^{※A}	51 ^{※A}	10 ^{※A}	-281 ^{※A}	-24 ^{※A}	-146 ^{※A}
	※2021年現在の就業数	149万人	128万人	196万人	1420万人	894万人	880万人	885万人	244万人	536万人
全職業	2040年の労働需要 (2040年の労働需要推計、※現在 の人口を前提、大規模)	2112 ^{※A} (2075万人)	1212 ^{※A} (1160万人)	685 ^{※A} (629万人)	227 ^{※A} (181万人)	1545 ^{※A} (1573万人)	83 ^{※A} (90万人)			
	供給とのミスマッチ	-37 ^{※A}	-52 ^{※A}	-60 ^{※A}	-47 ^{※A}	28 ^{※A}	7 ^{※A}			
	※2021年現在の就業数	2735万人	1240万人	563万人	154万人	1332万人	70万人			

将来の社会・産業構造変化を見据え、大規模大学を含めて、成長分野への学部等転換・重点分野の人材育成を一層強力に推進

支援内容

(1) 学部再編等による特定成長分野（デジタル・グリーン等）への転換等（支援1）

- ①「**成長分野転換枠**」（継続分） 学部再編等に必要な経費20億円程度まで
・産業界との連携を実施する場合に助成率を引き上げ

②「**大規模文理横断転換枠**」（新設） 大規模大学を含め、文理横断の学部再編等を対象にした支援枠を新設し、必要な経費40億円程度まで

- ・施設設備等の上限額を引き上げるとともに、支援対象経費に「新設理系学部の教員人件費」、「土地取得費」等を追加
- ・大学院の設置・拡充、産業界との連携を実施する場合に助成率を引き上げ
- ・文系学部の定員減を要件化、既存の文系学部の教育の質の向上に向け、ダブルメジャーを導入するなど高度なレベルの文理融合教育を実施する場合も支援対象
- ・教育課程や入学者選抜における工夫、高校改革を行う自治体、DXハイスクール・SSHとの継続的な連携等について確認を実施

○支援対象（①、②共通）：公私立の大学の学部・学科（理工農の学位分野が対象） ※原則8年以内（最長10年）支援、令和14年度まで受付

(2) 高度情報専門人材の確保に向けた機能強化（支援2）

これまでの高度情報専門人材の育成に加え、**AI、半導体、量子、造船、バイオ、航空等の経済成長の実現に資する重点分野**に係る高専等の学科・コースの設置等に伴う体制強化に必要な施設・設備整備費、教員人件費等**10億円程度**まで

※情報系分野の**高専新設・転換**の場合、上限額を**20億円程度**まで引き上げ

○支援対象：国公立の大学（大学院段階）・高専 ※最長10年支援、令和10年度まで受付

執行プロセスの見直しも実施

- ・構想段階から大学との対話・伴走支援を実施
- ・申請の事前段階から個別の構想の熟度を高め、より質や実現可能性の高い取組構想を厳選

【事業スキーム】



期待される効果

大規模大学の学部再編等も契機にしつつ、我が国の大学等の文理分断からの脱却を含む成長分野への組織転換を図ることで、社会・産業構造の変化に対応できる人材を育成・輩出し、一人一人の豊かさや我が国の国際競争力の向上、新たな価値の創造等に資する

高度情報専門人材の確保に向けた機能強化（支援 2） 採択状況

柱②

令和5年度

高専名	事業計画名	期間
仙台高専	仙台高等専門学校 高度情報専門人材育成・早期輩出機能強化事業	10年間
石川高専	石川工業高等専門学校によるKOSENの強みを活かした高度情報×専門教育による高度情報人材育成	10年間
鳥羽商船高専	鳥羽商船高等専門学校 情報機械システム工学科 高度情報工学コース設置	10年間
阿南高専	阿南高専における高度情報専門技術者育成事業	10年間
佐世保高専	未来技術人材を育成する次世代基盤技術教育を実現するための佐世保高専の学科改組～新たな教育体制整備と、社会ニーズに柔軟に対応する教育プログラムの構築～	10年間

令和6年度

高専名	事業計画名	期間
苫小牧高専	苫小牧工業高等専門学校DX・GX等の成長をけん引する高度情報専門人材の育成・輩出	7年間
旭川高専	旭川工業高等専門学校「北海道で急速に需要が高まる工学専門知識を備えた高度情報人材」の育成	10年間
鶴岡高専	実践的なオーダーメイドTsuruokaKosenSTEAM教育によるデジタルデザイン×専門のダブルメジャーとなるDX人材育成	10年間
木更津高専	木更津工業高等専門学校における学修者と社会の期待に応えるサイバーセキュリティ教育推進基盤強化事業	10年間
津山高専	津山高専 オンライン利活用による地域創成と未来展開型情報人材育成事業	10年間
広島商船高専	広島商船高等専門学校における学科改組に伴う情報系学生定員増員に向けた取り組み	10年間
宇部高専	DX/GX で切り開く未来を支える情報技術と高度専門性を備えた宇部高専エンジニアの育成	10年間
高知高専	高知工業高等専門学校における情報セキュリティ人材育成の拡充	10年間
熊本高専	地域から日本を支える熊本高専 ― ファーストペンギンズDXプロジェクト ―	10年間
鹿児島高専	鹿児島工業高等専門学校による Well-being な社会の実現に貢献する高度情報専門人材育成事業	10年間
神戸高専	神戸高専 学科構成および教育組織の再編による高度情報専門人材育成事業	10年間

令和7年度

高専名	事業計画名	期間
福井高専	福井高専における情報科学・情報技術×デザインマインドで未来社会を創造する高度情報専門人材育成事業	10年間
沼津高専	先端分野にも対応した沼津高専高度情報専門人材育成	10年間
奈良高専	専門にもAIにも強い人材を輩出する奈良高専モデルによる高度情報人材育成	10年間
呉高専	呉工業高等専門学校 先端情報技術を活用し未来社会モデル「Society5.0」を牽引する高度情報専門人材の育成	10年間
弓削商船高専	弓削商船高等専門学校 離島工学に基づく高度情報専門人材育成コースの構築	10年間
久留米高専	久留米工業高等専門学校における新時代に活躍する分野横断的高度情報専門人材の育成	10年間
滋賀県立（仮）	滋賀県立高等専門学校 整備計画	10年間

6. 高専新設の動き

高専新設の主な動向（令和8年7月時点）

柱①

滋賀県立高等専門学校

新たに用地及び施設を整備して運営予定。次代の社会を技術で支える実践力と豊かで幸福なエンジニア人生の基礎を築き、新たな社会課題にも自信をもって立ち向かえる「しなやかでたくましい人材」の育成を図る。

開設予定：令和10年度

設置・運営主体：公立大学法人滋賀県立大学

設置場所：

定員：1学年120名（予定）

学科構成：総合学科の1学科・4コース編成（情報系、電気電子系、機械系、建設系）

愛知県立高等専門学校

県立総合工科高校と併設して運営予定。生産年齢人口の減少、DXやAIの急速な進展等、将来の社会・産業構造変化を見据えた成長分野で即戦力となる「高度なものづくり人材」の育成を図る。

開設予定：令和11年度

設置・運営主体：愛知県公立大学法人

設置場所：愛知総合工科高等学校校地内（既存校舎も活用）

定員：1学年40名（予定）

学科構成：デザイン情報工学科（ロボティクスコース、AI・デジタルコースの2コース構想）

福岡市立高等専門学校

福岡市立博多工業高校と併設して運営予定。高度デジタル人材の不足や、高度専門人材の需要の高まりを背景として、高度な情報技術を活用・展開し、社会に新しい価値を生み出すことのできる人材の育成を図る。

開設予定：令和11年度

設置・運営主体：福岡市教育委員会

設置場所：博多工業高校の校舎及び福岡市所有産学官連携施設の2キャンパス制を想定

定員：1学年80名（予定）

学科構成：情報系1学科を設置予定

鳥取県

令和8年度補正予算において、県立高等専門学校（工業、農業）の設置にかかる検討経費を予算化。産学官関係者による協議会を設置し、県立高専の必要性のほか、設置する場合における方向性など、検討を進める。

大学・高専機能強化支援事業（成長分野転換基金）

令和7年度補正予算額
※令和4年度第2次補正予算額

200億再掲
3,002億円

現状・課題

- **少子高齢化**に加え、2040年には、**生産年齢人口の減少による働き手不足**により、我が国の社会・産業構造の大きな変化が見込まれる一方で、今後求められる理系人材を輩出する**理系学部**の定員が**未だ少ない**状況。
- また、日本成長戦略本部において、「**未来成長分野に挑戦する人材育成のための大学改革、高専等の職業教育充実**」について検討課題とされており、**半導体等の重点分野に関する人材育成を迅速に取り組む**必要。
- さらに、成長分野における即戦力となる人材育成を行う高専について、**公立高専の新設**の動きもある状況。

＜2040年の産業構造・就業構造推計＞

	管理職 職業	専門的技術的職業 職業	事務	販売	サービス	生産工程	輸送・機械 運転	運輸・清掃 包装等		
		うちAI・ロボット等 の活用を担う人材								
全産業	2040年の労働需要 (2040年の労働需要推計、※現在 の人口を前提、大規模)	124 [※] (175万人)	1387 [※] (1338万人)	498 [※] (172万人)	1166 [※] (1380万人)	735 [※] (786万人)	714 [※] (724万人)	865 [※] (980万人)	193 [※] (168万人)	415 [※] (209万人)
	供給とのミスマッチ	51 [※] (44万人)	-49 [※] (228万人)	-326 [※] (196万人)	214 [※] (142万人)	51 [※] (84万人)	10 [※] (88万人)	-281 [※] (88万人)	-24 [※] (244万人)	-146 [※] (505万人)
	*2021年現在の産業別									
		高卒	短大・高専等	大学進学	短卒進学	大学進学	短卒進学			
全産業	2040年の労働需要 (2040年の労働需要推計、※現在の人口を 前提、大規模)	2112 [※] (2075万人)	1212 [※] (1160万人)	685 [※] (625万人)	227 [※] (181万人)	1545 [※] (1573万人)	83 [※] (90万人)			
	供給とのミスマッチ	-37 [※] (2735万人)	-52 [※] (1240万人)	-60 [※] (563万人)	-47 [※] (154万人)	28 [※] (1332万人)	7 [※] (70万人)			

将来の社会・産業構造変化を見据え、大規模大学を含めて、成長分野への学部等転換・重点分野の人材育成を一層強力に推進

支援内容

(1) 学部再編等による特定成長分野（デジタル・グリーン等）への転換等（支援1）

①「成長分野転換枠」（継続分） 学部再編等に必要な経費20億円程度まで

- ・産業界との連携を実施する場合に助成率を引き上げ

②「大規模文理横断転換枠」（新設） 大規模大学を含め、文理横断の学部再編等を対象にした支援枠を新設し、必要な経費40億円程度まで

- ・施設設備等の上限額を引き上げるとともに、支援対象経費に「新設理系学部の教員人件費」、「土地取得費」等を追加
- ・大学院の設置・拡充、産業界との連携を実施する場合に助成率を引き上げ
- ・文系学部の定員減を要件化、既存の文系学部の教育の質の向上に向け、ダブルメジャーを導入するなど高度なレベルの文理融合教育を実施する場合も支援対象
- ・教育課程や入学者選抜における工夫、高校改革を行う自治体、DXハイスクール・SSHとの継続的な連携等について確認を実施

○支援対象（①、②共通）：公私立の大学の学部・学科（理工農の学位分野が対象） ※原則8年以内（最長10年）支援、令和14年度まで受付

(2) 高度情報専門人材の確保に向けた機能強化（支援2）

これまでの高度情報専門人材の育成に加え、**AI、半導体、量子、造船、バイオ、航空等の経済成長の実現に資する重点分野**に係る高専等の学科・コースの設置等に伴う体制強化に必要な施設・設備整備費、教員人件費等**10億円程度**まで

※情報系分野の**高専新設・転換**の場合、上限額を**20億円程度**まで引き上げ

○支援対象：国公立の大学（大学院段階）・高専 ※最長10年支援、令和10年度まで受付

執行プロセスの見直しも実施

- ・構想段階から大学との対話・伴走支援を実施
- ・申請の事前段階から個別の構想の熟度を高め、より質や実現可能性の高い取組構想を厳選

【事業スキーム】

文部科学省

基金造成

(独)大学改革支援・学位授
与機構 (NIAD-QE)

助成金交付



大学・高専

期待される効果

大規模大学の学部再編等も契機にしつつ、我が国の大学等の文理分断からの脱却を含む成長分野への組織転換を図ることで、社会・産業構造の変化に対応できる人材を育成・輩出し、一人一人の豊かさや我が国の国際競争力の向上、新たな価値の創造等に資する

(担当：高等教育局専門教育課)

高等学校教育改革等推進事業費の創設

柱①

- いわゆる高校無償化による公立高校への影響を考慮し、地方団体が地域の実情に応じて公立高校等における今後の社会・経済の発展を支える人材育成に向けた取組を進められるよう、新たに「高等学校教育改革等推進事業費」を計上し、「高等学校教育改革等推進事業債」を創設

1. 対象事業

高等学校教育改革実行計画※に基づき実施する以下の地方単独事業

※文部科学省が提示した高校教育改革に関する基本方針(グランドデザイン)を踏まえ、都道府県において策定される計画

(1) 専門高校※の機能強化・高度化に資する施設設備の整備

※工業高校、農業高校等

- (例) ・ 先端技術を活用した機器導入
・ 専門的な指導強化のための施設整備

※高等専門学校への転換等のための施設設備の整備も対象



(マシニングセンタ)



(スマート農業対応温室)



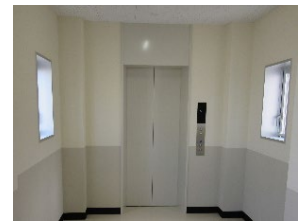
(化学生物系実験室)



(探究型学習空間)



(遠隔授業配信センター)



(校内エレベーター)

2. 地方財政措置

地方債充当率:90%、交付税措置率:50%

※施設の新増築・建替えについては、交付税措置率30%

3. 事業期間

令和8年度～令和13年度

4. 事業費

1,000億円